

まえがき

1971年に「通告のしおり」が初めて刊行されてから40年近くが経過した。この間、競技規則の改正、各種競技会での実践や研修会の成果等を踏まえて、数次にわたる改訂や増補が行われたが、1985年2月の「新訂版」が「通告のしおり」の最終版となった。

その後2001年12月に、「陸上競技アナウンサーのしおり」が発刊された。これは従来の「通告のしおり」を全面的に見直して、最新の動向をもとにリニューアルしたものであった。

基本的な内容は「通告のしおり」を踏襲しつつも、アナウンスの基本的留意事項をまとめた「基本編」と実際の競技会での活用を想定した「実践」を中心に、新たに「研究編」を追加するなど、全体的な構成は大幅な見直しをしたものであった。とくに「実践編」では、「実際にどのようにアナウンスしたらよいかわからない」という初心者の声を考慮して、実例を豊富に盛り込むことに留意した。また、「研究編」では、アナウンスを巡る諸問題について、今後あるべき方向性を探るべく論点を整理した内容であった。

今回、「全国陸上競技イベント・プレゼンテーション研修会」が開催されるにあたって、関連するアナウンス内容をさらに充実させるとともに、観衆を魅了する競技会運営を目指し、より実践に沿った内容であることを心掛けた。

2008年10月

財団法人日本陸上競技連盟
競技運営委員会 審判部

目 次

I 序

1	競技会とアナウンサー	1
2	アナウンサーの性格	1
3	アナウンサーとしての心構え	2
4	アナウンサーとしての資質	2

II 基本編

1	アナウンサーの基本的任務	4
2	アナウンス上の心得	5
3	アナウンスの用語	6
4	アナウンスの練習方法	7
5	競技会に臨むための準備	7
6	初心者の犯しやすい失敗	8
7	トラック偏重を避けるために	9
8	アナウンサーの編成と分担	9

III 実践編

■ **トラック競技**

1	全般的な留意事項	10
2	紹介	10
3	途中経過・描写等	16
4	途中時間	16
5	フィニッシュ	18
6	成績発表	19

■ **フィールド競技**

1	全般的な留意事項	24
2	紹介	24
3	途中経過・描写等	25
4	競技終了	28
5	成績発表	30

■ 混成競技

1 全般的な留意事項	34
2 紹介	34
3 途中経過・描写等	35
4 成績発表	36

■ 道路競技

1 全般的な留意事項	37
2 スタート前	37
3 スタート直前、紹介等	39
4 途中経過・描写等	40
5 成績発表	41

■ 表彰・式典

1 表彰	42
2 式典	43

■ その他のアナウンス

1 留意事項	44
2 実際のアナウンス要領	44

IV 研究編

1 競技会の規模や性格に応じたアナウンスのあり方	46
2 競技会のディレクターとしてのアナウンサーの役割	48
3 EPMの実際	49
4 競技場の設備環境に応じた工夫	50
5 競技会を盛り上げるために	52
6 フィールド競技の描写を充実させるために	52
7 アナウンスの省力化	56

V 資料編

1 アナウンス実戦トレーニング	58
2 長距離競走ラップタイム換算表	61

I 序

1 競技会とアナウンサー

「陸上競技会」とは何かと問われたら、一体どのように答えるだろうか。日本陸上競技連盟が公認する競技会の成立要件は以下のように定められている。

本連盟が公認する陸上競技会は、次の要件をみたすものでなければならない。

- 1 参加競技者の全員がアマチュアであること。
- 2 本連盟競技規則によること。
- 3 本連盟の公認競技場で開催すること。
- 4 審判員は、補助員を除きすべて公認審判員であること。

（寄付行為細則・第20条）

これらに、主催者に係わる要件が加わって公認の競技会が成立するが、その競技会を、次のような観点から考えることもできる。

- (1) 競技者が、まさに生命をかけて記録に挑戦する公式の場である。

青春の情熱を傾けトレーニングに励んだ成果を問う者、職業と両立させて試練に挑んできた者、ハングリーと闘って努力してきた者等、それこそ競技を体験した者でなければ理解しがたいほどの心をもって競技に生きる者の、記録への挑戦の場である。そこには畏敬の念を覚えずにはいられない。

生命の躍動、精魂を込めた競技の素晴らしさ、競技する者の美しさ、努力することの尊さ等がひしひしと感じられる。

- (2) 陸上競技を愛好し、競技の心に触れようとする競技役員にとっては、自己の技量を遺憾なく発揮し、競技者の挑戦に応える正念場である。

ルールを遵守し、かつ、競技者に対する温かい心を内に秘め、競技を円滑に進行させ、好記録の誕生を願い、喜び、祝い、ともに感動し、心を洗い直す絶好の場である。記録を通じて広く全国へ、アジアへ、全世界へ、呼びかけのできる公式の場である。

- (3) 観衆は、記録への挑戦に魅せられ、感激し、陸上競技の真髄を堪能する。

陸上競技の心、陸上競技の美を求めてやまない。

以上のように考えると、陸上競技会におけるアナウンサーとは、一体どのような使命を持つのであろうか。

実践を通し、研修を積み重ね、態度でその答えを示すことができるように、記録への挑戦という課題を核にしながらか、「アナウンスの心」を希求し続けたいものである。

2 アナウンサーの性格

競技規則第133条によれば「アナウンサーは、観衆に対して各種目の参加競技者の氏名、ナンバー、予選の組み合わせ、抽選で決まったレーン順あるいは試技順及び途中時間等の情報を発表する。各種目の成績（順位、時間、高さ、距離）は、記録・情報処理員から情報を受け取ったならば、できるだけ早くアナウンス

しなければならぬ。」とある。これらのことは、アナウンサーの基本的な任務として当然遂行しなければならないが、さらに、競技の焦点の解説、プログラムの予告をすることによって観衆に興味を抱かせるように、競技会の司会者的な役割まで果たすように心がけるべきである。

3 アナウンサーとしての心構え

- (1) 記録を明確に伝達することを心がけたい。用件を音声（ことば）によつて的確に伝達することが基本である。ことばに酔い、名調子と思つても、基礎・基本がしっかりしていなければ、せつかくの努力も水泡に帰してしまふ。
- (2) 音声（ことば）を通じて人柄が出る。競技の心を生かすように努めたい。その意味では、話し方のテクニックの習得も大切であるが、それだけを追い求めて心がこもっていなければ元も子もない。
- (3) 簡明に話す能力が要求される。話し方・読み方等の研鑽を常に心がけておきたい。また共通語とともに味わい深いふるさとのことばも大事にしたい。
- (4) アナウンサー以外の審判の経験も積み重ねるようにしたい。各種の経験が、自信や実力となつて、ことばに現れる。
- (5) ルール、記録等に興味・関心を持ち、常に研鑽、収集に努めるよう心がけたい。
- (6) 関連する情報をできる限り収集しておきたい。記録の収集だけでなく、とくに人名等で、判読しにくい難しい字に遭遇することが多いだけに、日頃からそのような字を意識してメモしておく必要がある。人名、地名、所属名等の誤読は、絶対に避けなければならない。
- (7) 審判にあたっては、体調を十分に整えておきたい。体調が不十分では、ことばの響きを感じられない。「生き生きした声、張りのある声」が聴く耳への快い響きとなる。
- (8) 持参する用品類は前日のうちに用意しておきたい。
- (9) 定刻前に余裕をもって到着できるように心がけたい。
- (10) 大会・競技会申し合わせ事項、及び競技注意事項を熟読するよう心がけたい。

4 アナウンサーとしての資質

- (1) 良い審判員であること。
 - ① 審判員としてアナウンサー以外の部署も十分に経験しておく。
 - ・ いきなりアナウンサーのみに専従するのは好ましくない。
 - ・ A級になってからアナウンサーを目指すのが望ましい。
 - ② 競技規則、競技者のプロフィール、記録など陸上競技事情に通じている。
 - ・ 競技規則全般の他に競技会運営事情にも通じている。
 - ・ 競技会参加者中の主な競技者の記録はもとより、全体の競技記録の事情も心得ている。
 - ・ 開催されている競技会の歴史やその位置付けなどが理解できている。
 - ③ 競技者としての経験もある。
 - ・ 競技者としての苦勞がよくわかる。
- (2) 共通語（全国共通のことば）を完全にマスターしている。
東京ことばは標準語ではない。東京方言である。共通語をもとに肉付け、洗

い落とし、純化することによって「標準語」となる。

① 音声の良否

- ・ 高すぎない。低すぎない。速すぎない。遅すぎない。大きすぎない。弱々しくない。
- ・ 唇が動かない。ハッキリしない。こもって陰気、鼻にかかる。深味がなくて軽い。濁って鈍重、ふくらみがなく貧弱、力んで粗野、紋切り型で事務的等ではいけない。
- ・ 音声聞き取りやすいか。
放送研究会、演劇のメンバー、アナウンサーなど音声聞き取りやすい（訓練されている）。

② 発音の正しさ

- ・ 『NHKアナウンス読本』から
東京育ち～「し」「ひ」、高知育ち～「じ」「ぢ」の区別
（例）司書と秘書の試験。雨が降る前に飴をしゃぶる。柄がかけた絵がかけた。根気よく婚期を待つ姉妹の鏡台。

II 基本編

1 アナウンサーの基本的任務

(1) 競技規則第133条による。

- ① 各種目の参加者、ナンバー、所属、レーン、跳躍・投てき順の紹介発表。
- ② 途中経過等すべての関係ある情報の発表。
- ③ 各種目成績の発表。

[注] 1 紹介や発表にあたっては、トラック競技のスタート、フィールド競技の試技に悪影響を及ぼさないようにする。

2 トラック競技においては、審判長、写真判定員主任、計時員主任と協議して、成績（順位・時間）及び途中時間等を速やかにアナウンスできるようにする。

3 成績の発表は記録員、情報処理員から受け取ったら、できるだけ早く、わかりやすく発表する。トラック競技の成績発表は、次の組の紹介前に終了するように努力する。とくにフィールド競技ではためておかない。

(2) 競技規則第132条による

コンピューターによる競技会運営システムを採用する場合、・・・（中略）・・・
アナウンサーと総務はコンピューターを介して結果を入力して良い。

(3) 競技規則第144条①による。

途中時間や予想優勝時間は、公式にアナウンスまたは表示することができる。審判長より事前の承認を得ない限り、競技場内のいかなる者も、時間を競技者に知らせてはならない。

(4) 総務の指示事項並びに一般アナウンス事項

① 第133条に準拠する以外で総務から指示された事項

- ・ 競技会開始前の時刻の規正～ラジオ、規準となる時計等の利用
- ・ 気象状況の定時アナウンス
- ・ 表彰時のアナウンス
- ・ 役員、競技者への伝達
- ・ 競技運営上必要な観衆への指示、伝達

② 総務の承認のもとにアナウンスする事項

- ・ 競技に関係のない呼び出し等

(5) とくに留意を要する競技規則

- ・ 第165条 ②～⑩手動計時、⑪～写真判定計時の単位、記録の発表方法
- ・ 第144条 助力（途中時間の表示） 第165条 ④途中計時
800m以上のレース＝1周ごとの時間
3000m以上のレース＝1000mごとの時間
- ・ 第131条 記録の流れ
- ・ 第143条 ①服装、②～⑥競技用靴、⑦～⑨ナンバーカード
- ・ 第166条 ③トラック競技の次のラウンドへの出場資格
- ・ 第180条 ⑰試技時間、④試技順
- ・ 第180条 ⑧～⑮フィールド競技の予選
- ・ 第181条 ⑤高さの跳躍の計測

- ・ 第184条 ①長さの跳躍の計測
- ・ 第187条 ⑱投てき競技の計測
- ・ 第167条 トラック競技の同成績
- ・ 第180条 ⑳フィールド競技の同成績（距離）
- ・ 第181条 ⑧フィールド競技の同成績（高さ）
- ・ 第146条 抗議②抗議に対する措置並びにアナウンス時刻の記入
- ・ 第260条 ⑧、⑩、⑪ 追風記録
- ・ 第163条 風力測定
- ・ 第187条 公式用器具（第183条⑩棒高跳用ポール）
- ・ 第160条 ④、第163条①⑤ レーン
- ・ 第170条 ②～⑤ 4×200m、4×400m
- ・ 第162条 ⑩長距離階段式スタート
- ・ 第162条 ⑤スタート時の大きな声
- ・ 第200条 ⑤混成競技の試技順、組み合わせ
⑦⑨写真判定、同採点方法
- ・ 駅伝競走規準 第6条（中継）、第12条（随行）

2 アナウンス上の心得

- (1) 落ち着いて、あわてず、あせらず、口に物を入れず・含まず、マイクに正対し、感度を十分考えて。
- (2) 生き生きとした、張りのある声で（発奮させる）。
- (3) 声量は普通、マイクで調整。
- (4) プログラムに書き込むことのできるスピードで（間のとり方に留意）。
- (5) 数字の語尾は若干あげて明瞭に。
- (6) 暗いイメージ、雰囲気をおそろしようなイメージの言葉は避けるようにする。（不快なイメージのない言葉の選択）
- (7) 成績発表は、トラック競技（とくにスタート時）やフィールド競技の試技に支障のないようにする。
- (8) リザルトの内容（ページ、順位、風速等）をよく確かめてアナウンスする。
- (9) アナウンスの終わった原稿にはアナウンス済みのチェックをし、アナウンス時刻及びアナウンサー名を必ず記入する（抗議に対する措置）。
- (10) 読みにくい文字、判読しにくい人名、地名、所属名等は事前に確認する（事前にプログラムを入手するとよい）。
- (11) 紹介時にスタートリストが間に合わない場合の措置を考えておく（トラック種目）。双眼鏡を利用しナンバーを確認したり、5分前になってもスタートリストが来なければ、競技者係・出発係に問い合わせる。（トランシーバーを活用する方法もある。）
- (12) 雨天、荒天、炎天の時には、競技者をアナウンスのために待たせない。
- (13) 本来の任務（紹介、成績発表、式典、表彰等）以外のアナウンスは、総務の承認を得たもの以外を行わない。
- (14) テレビやラジオの実況放送アナウンサーのような絶叫的アナウンスはしない方がよい。

3 アナウンスの用語

- (1) 男子は「君」、女子は「さん」。
- (2) 4は「よん」、7は「なな」、9は「きゅう」、0は「れい」、8分は「はちふん」（「はっふん」ではない）
- (3) 種目名
 - ① 競走
100m……「100メートル競走」
20km……「20キロ競走」
 - ② リレー競走
4×100m……「400メートルリレー」
4×400m……「1600メートルリレー」
100m+200m+300m+400m……「メドレーリレー」
 - ③ ハードル競走
110m H……「110メートルハードル」
 - ④ 障害物競走
3000m S C……「3000メートル障害」
- (4) 紹介
 - ① 「10時から競技が開始されます。」（「より」とは言わないのが普通。「より」は比較等の意味で使う。）
 - ② 短距離走の場合「第1レーン〜」（「第」を冠をした方が響きがよい。）
 - ③ 中長距離走の場合「内側から順に紹介します〜」（レーンと言わない）
 - ④ フィールド競技の場合「試技順に紹介します〜」（第1跳躍者等とは言わない）
- (5) 結果の発表
 - ① 「時間」「記録」「得点」などの項目名はせいぜい最初の一人だけにする。
 - ② トラック競技……「1着」「時間」、電気計時の時には秒未満の「22」を「にいい」と発表し、「にじゅうに」とは言わない。
 - ③ 時間表記……記録情報処理では、60秒を超える場合「1分02秒13（1.02.13）」の様に示すようになったが、話し言葉・聞き言葉としては、従来通り「62秒13」でよい。
 - ④ フィールド競技……「1等」「記録」「メートル」
 - ⑤ 混成競技……（トラック競技）「時間」「得点」
（フィールド競技）「記録」「得点」
（総合成績）「第1位」「得点」
 - ⑥ 表彰アナウンス……「第1位」
 - ⑦ 競技中の風の状態…「風」は「向い風（むかいかぜ）」「追い風」。「プラス（マイナス）の風」とは言わない。
「+1.0」は「追い風1メートル」
「0.0」は「この時風はありませんでした」
 - ⑧ 「他のレーンに入りましたので失格です。」（このような場合「インターレーン」とは言わない。）
- (6) 途中経過・描写
 - ① 「リードしている」「負けている」等の形容は避け、「先頭（トップ）」「続いて」「2番目・3番目」等の言い回しを心がける。（「2番手」「3番手」等の形容は避ける。）
 - ② 不正スタート時、「ただいまのは不正スタートです。」とは言わない。
運営上の問題でやり直すときに限り、「ただいまのは不正スタートではありません」
 - ③ 「失敗した」「棄権した」等の形容も控える。「クリアできなかった」「赤い旗が挙がっている」「出場していない」「途中で競技を止めている」等の言い回しを工夫

- したい。
- (7) 重複言葉を避ける。
- ① この時の風は追い風1.1mでした。 → 追い風1.1mでした。
 - ② 先頭は〇〇く、続いて△△くん、□□くんと続きます。
- (8) 時を示す用語の使い分け
「先ほど終了した」「ただいま終了した」「ただいま行われている」「この後行われる」「まもなく行われる」
- (9) 「書き言葉」ではなく「話し言葉」を使う等、わかりやすい表現を心がける。
「増加する」→「増える」、「過日（般）」→「先ほど」、
「極度に」→「ひどく」
- (10) 流行語や誤った日本語は使わない。
- ① 「わりかし」「すごい」「やばい」「かっこいい」等
 - ② 平板型発音
 - ③ 半疑問（いわゆる「語尾上げ」）
- (11) 使ってはいけない言葉
- ① 不適切用語（民族、心身障害者、職業、性等の差別、「身分証明」）
 - ② 具体的商品名（「タータン」「オーロラビジョン」等）
- ※ ただし、遺失物の連絡等で、「〇〇社製、青の26cmのスパイク」等の表現は可。
- (12) その他、記録について熟知し、また、競技規則に精通すること。
競技者の競技歴、新しい用器具についても十分調べておきたい。

4 アナウンスの練習方法

- (1) 習うより慣れろ。「しおり」を読むだけでなく、より多くの実践が必要である。
- (2) なるべく多くの競技会で、先輩アナウンサーのアナウンスを聴くことである。
「聴いた内容を、今度は競技会で自分が実践する」あるいは、「参考になるアナウンス内容をメモする」といったことの積み重ねが必要である。
- (3) 現場でのアナウンスをテープにとり、聴いて研究する。
- (4) 競技会後に反省会を行い、互いに研鑽を深める。
- (5) 通勤・通学中、目に入ってくる物を口に出して言う。
- (6) アナウンスの前に「口の運動」（54、55ページ参照）を行う。

5 競技会に臨むための準備

- (1) プログラムはいつ手に入るのか。
ほとんどの場合、当日の受付で配布されることになるが、事前に入手できれば、難読名や競技者のプロフィール等の下調べができる。全国大会、国際大会等では、事前の準備が必要である。
- (2) 持参する用品類はどのようなものが必要か
 - ① ルールブック、ハンドブック
 - ② 用箋バサミ（できればA4版3～6枚、色別であると使いやすい。）
 - ③ ストップウォッチ
 - ④ 双眼鏡
 - ⑤ 筆記具
 - ⑥ 時刻の規正された時計

- ⑦ その他競技会の規模・性格に応じて、ラップタイム表、記録集等
- ⑧ 混成競技が実施される場合は、採点表と電卓
- (3) いつまでに、到着すればよいか
競技開始1時間前には到着しているようにしたい（遅くとも30分前に）。
- (4) プログラムの確認
 - ① 日程
 - ② 表彰の有無
 - ③ 注意事項（招集の仕方・招集時刻、ラウンド進出の方法、予選通過標準記録、バーの上げ方等）
- (5) アナウンサー体制の確認
 - ① 何名で担当するのか（「8 アナウンサーの編成と分担」参照）
 - ② マイクの設置本数
 - ③ コンピューター利用の有無。モニターの設置台数
 - ④ 記録用紙の流れ
 - ⑤ 他の部署との連携方法
 - ⑥ 音楽使用の有無、担当者

6 初心者の犯しやすい失敗

初心者は不慣れなために次のような失敗を犯しやすい。そのために観衆にとって聞きにくく、記録をプログラムに記入できないことがしばしば起こる。従って、このような失敗はできるだけ早く矯正する必要がある。

- (1) 全般
 - ① カみすぎ、あるいは声にハリがない。
 - ② 種目名の言い誤り（例：3000m障害物競走）。
 - ③ マイクに正対しない。
 - ④ マイクに近づきすぎる
 - ⑤ しゃべり方が速い。
 - ⑥ 語尾が不鮮明。
- (2) 紹介
 - ① 「～m競走予選」の言い方で、「競走」と「予選」をつなげてしまう。
 - ② 競技者がすでにスタートラインの後方に並んでいるのに、待たせてしまう。
- (3) 途中計時
 - ① 途中計時地点を通過しても、なかなか時間をアナウンスできない。
 - ② 1周目400mの途中計時の言い方（例：66秒を1分06秒）
- (4) 成績発表
 - ① プログラムページを言ったあと、すぐに結果の発表に入ってしまう。（プログラムを開く余裕がない）
 - ② プログラムページを言わないで結果を発表する。（プログラムに記入できない）
 - ③ 発表が速すぎる。（書き取れない）
 - ④ 数字の語尾が下がる。とくに100分の1の位。（聞きにくい）
 - ⑤ 風の状況を言い落とす。
 - ⑥ 周囲の状況を見ないで発表してしまう。（フィールド競技の試技に悪影響を及ぼす）

7 トラック競技偏重を避けるために

従来のアナウンスはともすると、トラック競技のみに偏りがちであった。これは競技会の進行上どうしてもトラック競技を優先させてしまうためである。また新しいアナウンサーを養成する際に、トラック競技の方が比較的やりやすいがために、トラック競技関係から入ってしまうためである。しかし、陸上競技会はトラック競技とフィールド競技から成り立っているのであるから、フィールド競技にもっと重点を置かなければならない。トラック競技偏重を避けるために、次のような工夫が考えられる。

- (1) トラック競技の予選の競技者紹介を省略する。(組数と出場者数のみ紹介)。
- (2) トラック競技の長距離種目の予選では、途中計時を1000mごとに省略する。
- (3) フィールド競技担当のアナウンサーを増やす(1種目1名が原則)。
- (4) コンピューターシステムを利用する競技会では、フィールド競技担当アナウンサー用にパソコンが用意されることが望ましい。コンピューターシステムが利用できない場合は、補助員を使いフィールド競技の記録を一跳一投ごとに記録させ、その経過を積極的にアナウンスする。
- (5) トラック競技の合間にスポット的にフィールド競技の描写アナウンスを多く取り入れる。

8 アナウンサーの編成と分担

- (1) 競技会の規模により編成も異なるが、アナウンサーは競技種目数にふさわしい人数で編成されなければならない。具体的には、同時に最も多くの種目が行われる場面において、種目ごとに専任アナウンサーが配置できる人数で編成されるのが理想である。
- (2) 分担については、競技会の性格や規模にもよるが、種目ごとに分担する方法や時間帯で分ける方法等が一般的である。いずれにしても各アナウンサーが弾力的に対応することが必要である。
- (3) とくにフィールド競技や混成競技については、そもそも種目ごとに専任アナウンサーを配置しなければ、一跳一投の描写やトラック競技偏重を回避することは物理的に困難であることを考慮する必要がある。
- (4) 解説等を要する競技会では、予選、準決勝、決勝とも同一種目は同一アナウンサーが担当した方が効率的である。
- (5) 「トラック種目 → フィールド種目 → 表彰」等、短時間のうちに目まぐるしく担当が変わるような分担は、フィールド競技や混成競技の専任配置、同一種目・同一担当者等の原則からしても、望ましくない。
- (6) 往々にして、初心者や常時成績発表担当専任にする例があるが、このような分担はアナウンサーの育成上も好ましくない。
※ 大規模競技会では、コンピューターやスクリーン等の駆使により成績発表が迅速化されていることを勘案し、あえて成績発表担当アナウンサーを配置せず、紹介担当アナウンサーが成績発表も行うこともある。
- (7) 多岐に渡る競技を漏れなくカバーするために、補助員の機動力を活用する。
 - ① 結果発表時刻等を、進行表に記入させ、チェックさせる。
 - ② フィールド競技の記録を一跳一投ごとにフォローさせる。
 - ③ トップ8の確認のため、ピットに行かせる。
 - ④ 難読名等を調査させる。
 - ⑤ スタートリスト、リザルト類の整理にあたらせる。

Ⅲ 実践編

■トラック競技

1 全般的な留意事項

- (1) フィールド競技との関係を考慮しながらも、競技日程に従って、競技が遅れることがないように紹介や成績発表のアナウンスをしなければならない。
- (2) 予選、準決勝、決勝のようにラウンドが進む種目では、同じアナウンサーが担当することが望ましい。
- (3) トランシーバーやインカムを活用しながら、出発係と十分な連携をとることが求められる。
- (4) タイミングに十分な注意が必要である。レースの進行状況に注目しながら、「正確」「的確」「迅速」にアナウンスすることを心がける。
- (5) とすると饒舌なアナウンスに走りすぎて、フィールド競技に影響を及ぼしたり、観衆に不快感を与えることもあるので、周囲の状況や雰囲気をも十分に把握した上で、アナウンスすることも必要である。

2 紹介

- (1) セパレートレーンでスタートする種目
 - ① 出発係からトランシーバー等を用いて、準備完了の合図を送ってもらう方法が一般的である。そのタイミングは、写真判定員からスターターへの準備完了の合図がなされてからである。
 - ② 写真判定装置を使用しない競技会では、スターティングブロックの取り付けが終わり、流して、スタート地点に戻ってラインの後方に並んだ頃であり、およそスタート1分30秒くらい前である。ただし1分30秒にこだわる必要はない。出場者の気合いが合い、準備完了の合図があれば、1分30秒より前にアナウンスしてもよい。
 - ③ 紹介アナウンスは①種目名、②プログラム頁数、③大会記録等、④予選組数、⑤入選条件、⑥レーン順、⑦ナンバー、⑧出場者名、⑨所属であるが、練習を終えてスタート地点に戻ってくるまでに①～⑤を前振りとして紹介しておき、準備完了の合図と同時に⑥以下を紹介することが望ましい。紹介が終了してからスタート時刻まで30秒程度の時間を残すのが適当である。
 - ④ アナウンスがトラック競技偏重になるのを避ける観点から、また過密ダイヤを消化するための工夫として、第1次予選の場合は、出場者がプログラムに記載されていることから、レーンごとの出場者名の紹介を省略する方法もある。
 - ⑤ 紹介アナウンスを行うのか、省略するのか、事前に出発係と十分な打ち合わせをしておく必要がある。また、難読名について出発係に確認してもらう等、連携を密にすることが必要である。
 - ⑥ スターターはアナウンス終了と同時に、「位置について」を言うよう心がけている。紹介の終了には、「～の出場で行われます」のように結語をつける必要がある。

【例1 基本パターン】

- ① [時刻] からトラックでは、[種目]、[予選/準決勝/決勝] が行われます。
- ② プログラム〇ページ(反復)。
- ③ この種目の大会記録は、〇秒〇です。
- ④ (予選/準決勝の場合、次ラウンドへの進出条件) [種目]、[予選/準決勝] は全部で〇組行われまして、各組第〇着までと、〇着以下上位記録〇名が決勝へ進出いたします。
- ⑤ (それでは) 予選第1組出場者を申し上げます。
- ⑥ 第〇レーン、〇番、〇〇君、[所属]。(以下順に出場者全員紹介)
- ⑦ 以上〇名の出場で行われます。

【例2 予選の紹介例】

- ① 15時15分からトラックでは、女子400m競走、予選が行われます。
- ② プログラム16ページ(反復)をお開き下さい。
- ③ 女子400m競走、予選は3組行われますが、各組2着までと4着以下の上位記録2名が決勝に進出できます。(次ラウンド進出条件は必ずアナウンスする)
- ④ (それでは) 予選第1組出場者を申し上げます。
第2レーン、79番、北島さん、東京学芸大学。
第3レーン、300番、柘植さん、中京女子大学。
第4レーン、292番、堀江さん、ニッポンランラーズ。
(以下最終レーンまで同じ)
- ⑤ 以上(7名)の出場で、女子400m競走、予選第1組です。

- [注] 1 欠場者がいる場合、「〇〇さんは棄権です」等とは言わず、「第6レーンを空けて、第7レーン、234番鈴木さん…」と言う。一番外側のレーンが欠場の場合はコメントしない。
- 2 上記の例のアナウンス所要時間は、8レーン全員出場で50~60秒くらいである。

【例3 予選における簡略化した紹介例】

- ① 15時15分からトラックでは、女子400m競走、予選が行われます。
- ② プログラム16ページ(反復)をお開き下さい。
- ③ 女子400m競走、予選は3組行われますが、各組2着までと4着以下の上位記録2名が準決勝に進出できます。(次ラウンド進出条件は必ずアナウンスする)
- ④ 予選第1組の出場者は、プログラム記載全員7名で行われます。
(予選第2組はプログラム記載のうち、8レーンを除いた6名の出場で行われます。)

- [注] 1 スクリーンがある場合は、連携をとりながら活用する。
(「予選第1組はスクリーンの通り、7名全員で行われます。」)

- 2 スクリーンに、スタートリストを事前に表示しておいてもらう方法もある。
（「スクリーンには、次に行われる予選第3組の出場者が表示されています。」）

【例4 準決勝、決勝の紹介例】

- ① 17時15分から行われますトラック競技、女子400m競走、決勝です。
- ② プログラム14ページ（反復）。
- ③ この女子400m競走、日本記録は51秒75、大会記録は51秒93です。
- ④ そしてオリンピック参加のためのA標準は51秒55、B標準は52秒35です。
- ⑤ それでは出場者を申し上げます。
第1レーン、350番、桑原 千紘さん、早稲田大学。
第2レーン、256番、柳橋 裕里さん、早稲田実業高校。
第3レーン、276番、木田 真有さん、ナチュラル。
第4レーン、179番、久保倉里美さん、アルビレックス。
（以下最終レーンまで同じ）
- ⑦ 以上（8名全員）の出場で、女子400m競走、決勝です。

[注] 時間に余裕のある場合の決勝において、プログラム（スタートリスト）に読み仮名がふってあって誤読の心配がなければ、フルネームで紹介する方法もある。（スーパー陸上等、外国人競技者が多数出場するエキジビション的な競技会では、「ナンバー」「君」「さん」を省略することもある。）

【例5 紹介前の解説例】

- ① （出発係からの合図が入る3～5分前に）19時50分からトラックでは、男子200m競走、決勝が行われます。プログラム23ページ、デイリープログラムは6ページをお開き下さい。
- ③ 出場者の顔ぶれをあらかじめ紹介いたしますと、
まず第1レーンには、静岡国際第5位、アルビレックスの長谷川 充君。
第2レーンには、静岡国際第7位、WACの大前 祐介君。
第3レーンには、昨年日本選手権第2位すでにA標準を突破している、富士通の高平慎士君。
第4レーンには、昨年日本選手権チャンピオン、ミズノの末續慎吾君。
末續君もA標準を破っています。
第5レーンには、関東学生選手権でA標準突破20秒58をマークして優勝した、日本大学の藤光 謙司君。
第6レーンには、関東学生選手権100mの優勝者、筑波大学の齋藤 仁志君。
第7レーンには、昨年日本選手権第7位、稲庭うどん販売の田岡 洋和君
そして第8レーンには、昨年世界選手権代表、作新学院大学の神山 知也君。
- ③ 以上のメンバー（出場者）で、まもなく男子200m競走、決勝が行われます。
もうしばらくお待ち下さい。

[注] 1 レーン紹介前に解説を入れる場合、フィールド競技との兼ね合いに十分注意する必要がある。

- 2 紹介する時間に余裕がない場合や、天候不順の場合等では、準備完了前に、各出場者のプロフィール等を紹介しておくべきである。なお、特定の競技者にだけ偏ったり、逆に何のコメントもない競技者が出ることも避けるべきである（予選・準決勝の記録も活用できる）。とくに、IHやIC等の対校競技会では注意が必要である。
- 3 事前に解説を入れる余裕がなかった場合、紹介時にプロフィールを挿入してアナウンスする方法もある。

【例6 プロフィールを挿入しながら紹介する例】

- ① （出発係からの合図が入る2～3分前に）19時50分からトラックでは、男子200m競走、決勝が行われます。プログラム23ページ、デイリープログラムは6ページをお開き下さい。出場者の今シーズンここまでの記録を見ますと、第5レーン、日本大学の藤光君が20秒58、第3レーン、富士通の高平君が20秒62をマークしています。そして第4レーン、ミズノの末續慎吾君は、昨年、20秒20をマークしています。
- ② （出発係からの合図を受けて）それではトラック競技、男子200m競走、決勝です。プログラム23ページ、デイリープログラムは6ページです。
- ③ 日本記録、そして大会記録は、ミズノの末續慎吾君の20秒03。
- ④ 決勝出場の8名をご紹介します。どうぞ大きなご声援をお願いいたします。
第1レーン、236番、静岡国際第5位、長谷川 充君、アルビレックス
第2レーン、339番、静岡国際第7位、大前 祐介君、WAC。
第3レーン、107番、昨年の日本選手権第2位、高平 慎士君、富士通。
第4レーン、450番、昨年の日本選手権チャンピオン、日本記録保持者、末續慎吾君、ミズノ。
第5レーン、257番、関東学生チャンピオン、藤光 謙司君、日本大学。
第6レーン、361番、関東学生選手権100mの優勝者、齋藤 仁志君、筑波大学。
第7レーン、161番、昨年の日本選手権第7位、田岡 洋和君、稲庭うどん販売。
第8レーン、77番、昨年の世界選手権代表、神山 知也君、作新学院大学。
- ⑤ 以上の出場で、男子200m競走、決勝が行われます。

- 〔注〕 1 「日本記録保持者」等の冠をつけて紹介する場合は、ナンバーと氏名の間に挿入する。
- 2 あまり長く待たせると競技に影響を及ぼすので、プロフィールは最小限に留める。

【例7 リレーの紹介例】 IH

- ① 18時10分から行われますトラック競技、男子400mリレー、準決勝です。
- ② プログラム85ページ、デイリープログラム7ページをお開き下さい。
- ③ この男子400mリレー準決勝は、3組行われまして、各組2着までと3着以下上位2チームが決勝に進出いたします。日本高校記録、大会記録ともに94年に添

上高校が作りしました40秒23です。

- ④ それでは準決勝第1組の出場チームを申し上げます。

第2レーン、土佐、2レーン、土佐。

第3レーン、利府、3レーン、利府。

第4レーン、添上、4レーン、添上。

(以下最終レーンまで同じ)

- ⑤ (終わりに) 以上8チームの出場で、男子400mリレー、準決勝第1組です。

[注] 1 何レーンにどのチームが出場するかを明確にするために、チーム名に主体をおいてアナウンスする。(反復するとよい)

2 不慣れな出場者(小・中学生、定時制高校生等)が多い場合には、トラックに出てきて練習を開始した時点で1回、レーン順・所属等を繰り返してアナウンスすると親切である。

3 第1走者の準備完了を確認するだけでなく、第2走者以後の準備完了を確認する心配りが必要である。

【例8 リレーでメンバーまで紹介する例】 IH

- ① 18時30分から行われますトラック競技、男子400mリレー、決勝です。

- ② プログラム85ページ、デイリープログラム8ページをお開き下さい。

- ③ この男子400mリレー、日本高校記録、大会記録ともに94年に添上高校が作りしました40秒23です。

- ④ それでは決勝の出場チーム、並びにオーダーを申し上げます。

- ⑤ 第2レーン、京都共栄。(第1走者から順に)塩見君、松山君、江田君、泉山君。第2レーン、京都共栄。

第3レーン、長野日大。相澤君、田中君、坂口君、黒岩君。第3レーン、長野日大。

第4レーン、大阪。長谷川君、高木君、松原君、大原君。第4レーン、大阪。

(以下最終レーンまで同じ)

- ⑥ (終わりに) 以上8チームの出場で、男子400mリレー、決勝が行われます。

[注] 1600mリレーの場合、オーダーを紹介する時間的余裕がなければ、レース中やバトンパスのタイミングに合わせて、「○○高校は○○君」のように紹介する方法もある。

(2) オープンコースでスタートする種目

- ① これも出発係からの合図で行うのが無難である。出場者が出発係の点呼を受けて、スタート線から軽くウォームアップをし、スタートライン付近に戻り始めた時が目安である。長距離種目では出場者が多いので、全員がスタートライン付近に集合した頃が目安となる。アナウンス所要時間がスタート時刻と直接関係を持つ。10名1分見当、20名2分を考慮してアナウンスするとともに、事前に何分前に集合させるか出発係との連携を密にしておく必要がある。

- ② 出場者が多くて競技日程に余裕がない時には、「出場者はスタートしてから紹介します」等と断った上で、種目名、プログラムページ、次ラウンドへの進出条件、出場者数のみを紹介して、個々の競技者名はスタート後に紹介する方法もある。ま

た、予選においては、プログラムを参考にして欠場者のナンバーと出場人数だけをアナウンスする方法もある。ただし、これらはいくまでも簡略化した方法であり、とくに決勝等においては、時間を確保できる場合はスタート前に出場者名まで紹介するのが基本である。

【例9 1500mの紹介例】

- ① 18時50分から行われますトラック競技、男子1500m競走、予選です。
- ② プログラム7ページ（反復）。
- ③ 予選は2組ありまして、各組5着までと6着以下上位記録2名が決勝に出場できます。
- ④ 予選第1組の出場者は、
391番、小林君、NTN。268番、中野君、大塚製薬、…
(以下、順にアナウンスする。)
- ⑤ (終わりに) 以上(10名)の出場で行われます。

【例10 1500mにおける簡略化した紹介例】

- ① 18時50分から行われますトラック競技、男子1500m競走、予選です。
- ② プログラム7ページ（反復）。
- ③ 予選は2組ありまして、各組5着までと6着以下上位記録2名が決勝に出場できます。
- ④ 予選第1組の出場者は、スタートしてから紹介します。スタートにご注目を。
- ⑤ (スタートしたあと) 予選第1組の出場者は、391番、NTNの小林君。268番、大塚製薬の中野君。425番、早稲田大学の高橋君、… (以下全員)
- ⑥ (終わりに) 以上〇名の出場で行われています。

【例11 1500mにおける簡略化した紹介例】

- ① 18時50分から行われますトラック競技、男子1500m競走、予選です。
- ② プログラム7ページ（反復）。
- ③ 予選は2組ありまして、各組5着までと6着以下上位記録2名が決勝に出場できます。
- ④ 予選第1組の出場者は、プログラム記載全員10名の出場で行われます。

【例12 10000mにおける簡略化した紹介例】

- ① 13時30分から行われますトラック競技、男子10000m競走、予選です。
- ② プログラム〇ページ（反復）。
- ③ 予選は2組ありまして、各組9着までが決勝に出場できます。
- ④ 予選第1組の出場者は、プログラム記載のうち、(上から5番目)14番、(3人下)15番、(下から2番目)68番を除きました16名で行われます。
- ⑤ それではスタートにご注目を。
(プログラムのどの辺りの位置かについて触れると親切である。)

3 途中経過・描写等

- (1) スタート直後に「〇〇競走、予選（準決勝・決勝）第〇組です」とアナウンスする。
- (2) 「誰がリードしている」等の形容は、厳正・公平・中立の立場から望ましくないの
で、避けるようにする。レースの状況により、「先頭は〇番（またはユニフォームの
色等）〇〇大学の〇〇君、続いて〇〇大学の〇〇君、3番目には〇〇大学の〇〇君」
のように説明する。
- (3) 「先頭は〇〇くん、続いて△△くん、□□くんと続きます」と言ってしまうがちだ
が、「続いて△△くん、□□くん。」や「先頭は〇〇くん、その後ろに△△くん、□
□くんと続きます。」のように表現を工夫する。
- (4) 予選等において、最後のホームストレートで接戦になったような場合には、「この
予選は、3着までと4着以下の上位2名が入選です」等と挿入すると親切である。

4 途中時間

- (1) 途中計時は計時員の任務であるが、極力早く知らせるという意味から、参考として
アナウンサー自身が途中計時を行い迅速に発表する。
- (2) 途中時間はあくまで参考であるから、秒未満は発表しない。また、秒単位への繰り
上げが原則である。（例：「5分23秒14」→「5分24秒」）
- (3) ただし、フィニッシュタイマーやスクリーンなど場内の時計が作動する場合は、そ
れを活用した方が無難である。この場合、場内の時計とアナウンスする時間が異な
ると観衆が混乱するので注意を要する。（場内の表示は秒以下が切り捨てられているこ
とが多い。）
- (4) 場内の時計が作動しない場合は、アナウンサーが手許のストップウォッチで計時す
る。途中計時の目標は、計時地点のフィールド内に目印旗を立ててもらおう。
- (5) 誤読や周回の誤り等を防止するため、必ずプログラムやラップタイム用紙に計時距
離、距離、時間等を逐次記入する。（とくに、長い距離では必要である。）
- (5) 計時方法
 - ① 800m、1500m …………… 各周ごと
 - ② 3000m S C …………… 1000mごと（各周ごとを入れてもよい）
 - ③ 3000m、5000m、10000m …………… 1000mごと（余裕があれば各周ごと）
 - ④ 20000m、5000mW、10000mW …… 1000mごと
- (6) 走者、観衆とも途中時間のアナウンスを参考にしていることから、計時地点通過直
後に迅速かつ簡潔明瞭にアナウンスすることが最大のポイントである。そのため、計
時地点を通過する前に先頭走者のナンバー及び氏名をアナウンスしておき、通過後は
時間のみを極力簡潔にアナウンスする等の工夫が必要である（通過後20m以内を目途
にアナウンスする）。日本記録の際の途中時間や以前に出した記録等と比較する場合
も、通過以前にアナウンスするべきである。

また、各周ごとのラップタイムや、1000mごとの通過時間からおおよそのフィニッ
シュタイムを予想することができる。計算をすばやく行う工夫も必要である。

【例13 途中時間アナウンスの迅速化例1】

- ① （通過前）5000m競走決勝は、途中2000mを通過します。
- ② 39番河内君を先頭に、2000mは、5分、
- ③ （通過直後）38秒、5分38秒。

[注] 通過後に「2000mの通過時間、先頭は277番の松宮君、コニカミノルタで、5分38秒でした」等と長々とアナウンスしない。

【例14 途中時間のアナウンスの迅速化例2】

- ① (通過前) 5000m競走決勝は、(18番早田君を先頭に) やがて2000m。
- ② ○○君の日本記録の時は5分22秒1。本日は、5分、
- ③ (通過直後) 24秒、5分24秒の通過です。

【例15 途中時間からフィニッシュタイムを予想するアナウンス例】

- ① (通過前) 5000m競走決勝は、(277番松宮君を先頭に) やがて4000m。
- ② 松宮君の1000mごとの通過時間は2分43秒、2分53秒、2分53秒と来ています。
- ④ 4000mの通過は(通過直後) 11分10秒、11分10秒の通過です。
- ⑤ 3000mから4000mにかけて2分41秒とペースが上がりました。
- ⑥ この調子で行きますと、13分50秒を切れるかどうか、といったところです。

【例16 途中時間を計算する方法例】

5000m			
4800m			
4400m			
4000m	11分10秒	65秒	2分41秒
3600m	10分05秒	65秒	
3200m	9分00秒	66秒	
3000m	8分29秒		2分53秒
2800m	7分54秒	69秒	
2400m	6分45秒	69秒	
2000m	5分36秒	70秒	2分53秒
1600m	4分26秒	68秒	
1200m	3分18秒	68秒	
1000m	2分43秒		
800m	2分10秒	66秒	
400m	64秒		
	277番		
	先頭	400mごと	1000mごと

[注] ・ストップウォッチのラップタイム機能を利用する場合がある。
 ・メモをとる場合、上記の例のように走行距離を下から順にして記入すると計算がしやすい。

5 フィニッシュ

- (1) 最近では、フィニッシュライン付近のフィールド内にフィニッシュタイマーが置かれることが多くなり、1着の速報の発表が容易になったので十分活用したい。
- (2) フィニッシュタイマーの最初の表示は、1着に入った競技者の身体の一部（必ずしもトルソーであるとは限らない）が光電管を遮ることによって止まる参考記録であり、正式記録の「速報」ではない。従って「速報は○秒○」とは言わず、「フィニッシュタイマーは○秒○で止まっています」等とアナウンスする。一度消えてから、再びレーンナンバー、ナンバー、記録が表示されたものが、正式記録の「速報」であり、その際には「正式記録の速報は○秒○」「フィニッシュタイマーに正式記録の速報が表示されました」等とアナウンスする。
- (3) 独走でフィニッシュした場合は「1着の○○君の記録はどうでしょうか」、数人で競り合った場合には「4レーンは○○君、3レーンは○○君、最後に追い込んできたのは6レーン○○君でした。1着の速報にご注目を」等と観衆の注意を喚起する。
- (4) スクリーンにレースのリプレイが映し出されている時には、「リプレイをご覧下さい」「リプレイです」等と挿入して観衆の目をスクリーンに向ける（アナウンスがないと観衆は気づかない）。なお、リプレイが映し出される場合は、「フィニッシュ → リプレイ → 1着速報」が基本的な流れとなる。
- (5) 200mまでの種目については、風向・風力に注意する必要がある。
- (6) リレー競技等で黄旗が上がった時は、記録に誤りがないかを確かめて発表する。
- (7) 日本新記録、大会新記録等はプログラムでも確認できるが、それ以外でも、「歴代第○位。100mに続いて2冠。3年連続4回目の優勝」等のコメントを紹介できるよう準備しておきたい。
- (8) 2着以下でも、大会新記録であったり、年齢が異なる場合は高校新記録や中学新記録が誕生しているケースがある。記録・情報処理と連携を密にし、速報できる体制を確立しておきたい。近年ではコンピューターで情報を入手できるようになったことから、入力される記録を順次発表していくという方法が取られている。

ただし、混戦のレースでは「同タイム着差あり」のため、入力順とは順位が異なることがあるので、注意が必要である。記録・情報処理と連携を密にしておくことが必要である。
- (9) 従来、黄旗が挙げられている場合はフィニッシュ・タイマーに速報を表示するのを控えていた。しかし1着とは関係ないところで黄旗が挙げられる場合も多いので、記録の速報性を重視し、黄旗が挙げられていることをことわった上で表示するとともにアナウンスして紹介すべきである。

【例17 フィニッシュのアナウンス基本パターン】

- ① フィニッシュタイマーは○秒○。（観衆の注目をフィニッシュタイマーに促す）
- ② メインスタンド前の風の表示は、〔 追い風/向い風 〕○m。（風力表示器に注目を促す）
- ③ スクリーンにはリプレイが出ています。（スクリーンに注目を促す）第4レーンは○○君、第3レーンは○○君、最後に追い込んできたのは第6レーンの○○君でした。
- ④ 間もなく、フィニッシュタイマーに1着の正式記録の速報が表示されます。（フィニッシュタイマーに注目を促す）
- ⑤ 1着は第○レーン、○○君、〔 所属 〕。時間、○秒○。風は、追い風（向い風）○mでした。

【例18 新記録誕生時のアナウンス例】

- ① フィニッシュタイマーは11秒36で止まっています。
- ② 風は … (表示を待って)、追い風1.7m。記録が公認される風です。
- ③ 従来 of 日本記録は11秒36。新記録誕生に期待がかかります。
- ④ スクリーンはリプレイです。福島さん、スタートから飛び出し、絶好の追い風に乗って、同僚の北風さんに大差をつけてフィニッシュしました。
- ⑤ … 間もなく、正式な記録が表示されます。
- ⑥ (フィニッシュタイマーの表示と同時に) 11秒36。日本タイ記録の誕生です。福島さん、見事な日本タイ記録をマークしました。
- ⑦ スタンドの皆さん、日本タイ記録を樹立した福島さんに、どうぞ大きな拍手を。

【例19 2着以下のアナウンス例】

- ① 1着は4レーンの〇〇君、10秒39。大会新記録の誕生です。追い風の1.2mでした。
- ② そしてアナウンサー席のモニターには5レーン△△君10秒40。これは大会タイ記録。
- ③ 3レーン□□君のタイムも10秒40。これもまた大会タイ記録。
- ④ 正式な結果は後ほど申し上げます。

【例20 黄旗が挙げられている場合のアナウンス例】

- ① ただいま行われた男子110mハードルの準決勝第1組。黄色い旗が挙がっております。
- ② フィニッシュタイマーは1着4レーン〇〇君、15秒19。向かい風0.7mでした。
- ③ 正式な結果は後ほど申し上げます。

6 成績発表

(1) トラック競技一般種目

- ① 競技者本人はもちろん、観衆も結果を一刻も早く知りたがっているので、迅速に発表できるように心がける。
- ② 競技進行中には、原則として発表アナウンスはしない。競技の実施状況をよく確かめ、アナウンスの可否を判断する。
- ③ リザルトはためておかないで、できるだけ早く発表する。
- ④ 「フィニッシュ → 成績発表 → 次の紹介」の順序を原則とする。
※ 競技日程が過密な場合には、フィニッシュ後、成績発表の前にフィールド競技の描写をするのもよい。
- ⑤ 記録に誤りがないか(とくに着順と時間の関係、風力、新記録等)、プログラムページ(観衆がプログラムに記入することを考慮し、プログラムページは必ず言う)等を確認する。
- ⑥ リザルトは、必ずしも競技の実施順に流れてくるとは限らない。順序が前後する場合は、その旨を断ってから発表する方が親切である。
- ⑦ リザルトの記載様式は、1行目が必ずしも1着ではないので注意が必要である。
- ⑧ プログラムに記入する立場に立って、プログラムの様式に合わせたアナウンスをするよう留意する。

- ・ 長距離種目等で多数の競技者が記載されている場合は、どの辺りに記載されているか、コメントを添える（「上から○人目」等）。
 - ・ レーンの記入欄がない場合は、あえてレーンナンバーは言わない。
 - ・ 2着以下は項目名「時間」を省略して短縮化を図る。
- ⑨ スクリーンを使用する時は、タイミングを合わせるようにする。

【例21基本パターン】

- ① プログラム○ページ（反復）。
- ② 先ほど行われました（ただいま行われております／ただいま終了いたしました）トラック競技、〔種目〕、予選第○組の結果を発表します。
（観衆がプログラムを開く時間的余裕をとる。）
- ③ 予選第○組。1着、第○レーン、○番、○○君、〔所属〕。○秒○。
（以下順に出場者全員発表）
- ④ （200m以下の種目では）この時、〔追い風／向い風〕、○mでした。

【例22 200mの成績発表例】

- ① プログラム16ページ（反復）をお開き下さい。
（少し間を置いて）
- ② ただいま行われています、女子200m競走、予選第1組の結果です。
- ③ 予選第1組
1着、（第5レーン）、356番、信岡さん、ミズノ。 時間、24秒08。
2着、（第7レーン）、335番、中村さん、慶応義塾大学。 24秒11。
（以下、順に着まで発表）
- ④ 以下はスクリーンをご覧ください。
- ⑤ この時、追い風（向い風）0.3mでした。

- [注] 1 「+」「-」と表記されているが、「プラスの風」「マイナスの風」とは言わない。また、競技終了直後の風力表示器に注意し、漏れのないようにする。
- 2 時間に余裕があれば、全員の結果を発表することが原則である。余裕がなければ、スクリーン等で確認してもらおう旨を伝え、下位を省略することも可能である。ただし、次ラウンドに進出できる+ α の対象となる順位（例：「予選2組3着+2」の場合は5着）までは極力発表すべきである。
- 3 時間が決定できなかつたり、失格による繰り上げ等で、記録がないような場合の読み方については、「時間はありません」「時間は不明です」等と言うよりは、その理由や事情を穏当かつ簡潔な用語で適切に表現するように工夫する。
- 4 失格者がいる場合は、わかりやすい表現でその理由をアナウンスする。
例「レーン侵害」→「他のレーンに入りましたので …」
「ハードリングが正しくなかったので …」

- 5 通過条件の最終枠に同着・同タイムがいる場合、 $+\alpha$ も変更されることもあるので、注意が必要である。
- ① 8レーンの競技場。最終着で同着が複数名 → $+\alpha$ が減少
 - ② 8レーンの競技場。 $+\alpha$ の最終枠で同タイムが複数名 → 抽選
 - ③ 9レーンの競技場。最終枠で同着が複数名
→ レーンに余裕がある限り $+\alpha$ はそのまま。不足すれば $+\alpha$ 減少
 - ④ 9レーンの競技場。 $+\alpha$ の最終枠で同タイムが複数名
→ レーンに余裕がある限り $+\alpha$ はそのまま。不足すれば抽選

【例23 100mの成績発表例】

- ① プログラム15ページ（反復）。
- ② 先ほど行われました女子100m競走、予選最後の第5組の結果を申し上げます。
- ③ （少し間を置いて）予選第5組の結果。
1着、（第7レーン）90番、福島さん、北海道ハイテク。時間、11秒53。
2着、（第5レーン）272番、渡辺さん、ナチュラル。11秒99。
（以下、順に発表）
- ④ この時、向風0.4mでした。
- ⑤ なお、この女子110m競走予選は、各組2着までと、3着以下の上位6名が決勝に出場できます。その6名は、第1組3着238番、斎藤さん、平成国際大学、12秒17。第3組3着228番、清水さん、中央大学、11秒93。第4組3着317番、岡部さん、筑波大学12秒05。4着304番、三枝さん、ヤマトヤT・C、12秒20。第5組3着208番、高木さん、龍谷大学、12秒08。4着91番、寺田さん、北海道ハイテク、12秒12。以上12秒20までの競技者が決勝進出です。

- [注] 1 プラス α を採用する時は、当該種目最終組の発表後に、プラス α を発表する。（記録や番組編成からの成績の流れ方により、多少遅れる場合もある。）
- 2 発表の終わったりザルトをもとに、プラスの通過者を整理しておく心構えが必要である。ただし、発表については、番組編成の決定を待ってから行わなければならない。
- 3 プラス α の通過者が複数いる場合、番組編成からは記録順で送られてくることが多い。予選の組数が多い場合は、「12秒20までが通過しています」等と断った上で）プログラム順に発表する方が親切である。

【例24 プラスアルファの発表に間があいた場合】

- ① プログラム16ページ（反復）。
- ② 先ほど行われました、女子200m競走、予選の結果、決勝進出のプラス2名を申し上げます。
- ③ （少し間を置いて）決勝進出のプラス2名は、
予選第1組3着、95番 長倉さん、都留文科大、24秒16。
予選第3組3着、273番 栗本さん、ナチュラル。24秒69。
- ④ 都留文化大学の長倉さん、ナチュラルの栗本さんが決勝進出です。

【例25 同成績多数で+αが減少する場合のアナウンス例（8レーン競技場）】

- ① なお、この男子100m競走の予選は全部で11組あり、各組2着までと3着以下上位2名が準決勝進出の条件で行われましたが、8組に2着が2名おりますので、3着以下上位1名だけが準決勝に進出できます。
- ② 準決勝進出者は、予選第1組3着〇〇番〇〇君〇〇高校、10秒78。
- ③ 〇〇高校の〇〇君が準決勝に進出いたします。

【例26 +α最終枠に同タイムがいる場合のアナウンス例（9レーン）】

- ① なお、この男子100m競走の予選は11組あり、各組2着までと3着以下上位2名が準決勝進出の条件で行われました。+2名の最終枠に同タイム者がおりますので、準決勝進出の+αは次に呼ぶ3名になります。
- ② 予選第1組3着の〇〇番〇〇君、10秒78。
第3組3着の〇〇番〇〇君、10秒79。第5組〇〇番〇〇君、10秒79
(必要によっては反復)
- ③ 以上の3名が準決勝に進出いたします。

【例27 同成績多数で抽選を行う場合の呼び出し例】

- ④ なお、この男子100m競走の予選は11組ありまして、各組2着までと3着以下上位2名が準決勝に出場できます。同タイムが4名いますので、これから抽選を行います。
- ⑤ 予選第1組3着の〇〇番〇〇君、第3組3着の〇〇番〇〇君、第5組〇〇番〇〇君、最後の第11組〇〇番〇〇君。(必要によっては反復)
- ⑥ 至急、本部番組編成係までお集まり下さい。

(2) リレー種目

- ① 入賞チームについて、メンバーはオーダーに従って氏名を発表する。
- ② 紹介アナウンスと同様に、予選では入賞チーム名と記録だけしか発表できない場合もあるがやむを得ない。
- ③ 失格となったチームについては、リザルトに記載された理由を説明する。(記録員に対して、理由を説明する簡潔な用語の記載をあらかじめ要請しておく)

【例28 400mリレー予選の成績発表例】

- ① プログラム82ページ(反復)。
- ② 先ほど行われました、男子400mリレー、準決勝第3組の結果を申し上げます。
- ③ (少し間を置いて)
予選第2組の結果。1着、第9レーン、藤枝明誠。 時間、41秒38。
2着、第6レーン、盛岡南。 41秒40。
3着、第6レーン、青森北。 41秒42。

4着、第4レーン、白河旭。 41秒93。

- ④ 5着以下はスクリーンをご覧ください。
- ⑤ なお第2レーンの黒沢尻北は、第3走者から第4走者へのバトンパスでオーバーゾーンがありましたので、失格となっています。

[注] 1 ナンバーを言わない分、レーンナンバーを言って、観衆が確認する時間をとると親切である。また、チーム名を反復する方法もある。

2 失格チームがある場合は、リザルトに記載されている失格の理由を確認し、わかりやすい表現でアナウンスする。

例「オーバーゾーンのため …」

「バトンパスが正しく行われなかったので …」

【例29 400mリレー決勝の成績発表例】

- ① プログラム85ページ、デイリープログラムは8ページです。
- ② 先ほど行われました、男子400mリレー、決勝の結果を申し上げます。（日本高校新記録が誕生しています。）
- ③ （少し間を置いて）男子400mリレー決勝の結果。
 - 1着、第6レーン、宇治山田商業・三重。長谷川君、中井君、柳原君、林君。
 - 1着、宇治山田商業。時間、40秒89。
 - 2着、第7レーン、洛南・京都。岡本君、中川君、前田君、福島君。
 - 2着、洛南。 40秒91。
 - 3着、第5レーン、藤枝明誠・静岡。加藤君、飯塚君、粳田君、天野君。
 - 3着、藤枝明誠。 41秒02。
- （以下、順に発表）
- ④ 以上でした。

[注] メンバーを紹介したあと、再度所属を言う。日本記録、大会新記録等が出た場合は反復する。

■フィールド競技

1 一般的な留意事項

- (1) トラック競技との関係を考慮して、できる限り一跳一投ごとにアナウンスを行うよう留意する。そのためにフィールドアナウンスはあらゆる努力をしなければならない。
- (2) 一跳一投のアナウンスを行うためには、種目ごとに専任アナウンサーを配置してフォローする体制が不可欠である。
- (3) トランシーバーやコンピューター等を活用しながら、フィールド審判員と十分な連携をとることが求められる。
- (4) タイミングに十分な注意が必要である。トラック競技の進行状況や競技者の集中度合に注目しながら、「正確」「的確」「迅速」にアナウンスすることを心がける。
- (5) とするとトラック競技の影に隠れがちであるので、観衆にアピールするようなアナウンスも必要である。

2 紹介

- (1) 競技者はピットに入場後練習を行ない、それから競技を開始するので、紹介アナウンスは競技開始5分前を目途とする。ただし、トラック競技や表彰との兼ね合いで、5分前よりも早く紹介することは構わない。
- (2) 予選の試技順はプログラム記載の左から右か、上から下かを確認する（競技注意事項参照）。
- (3) 予選通過標準記録等が設けられている場合には、あわせて紹介する。
- (5) 高さを競う種目では、最初のバーの高さとその後のバーの上げ方を説明する（競技注意事項を参照する）。

【例 30 距離を競う種目の紹介基本パターン】

- ① [場所] では、○時から、[種目] [予選/決勝] が行われます。
- ② プログラム○ページ（反復）。
- ③ この種目の [大会] 記録は○m○○です。
- ④ 予選通過標準記録は○m○○で行われます。
- ④ 出場選手を申し上げます。○番、○○君、[所属]。
（以下順に出場選手全員を紹介）
- ⑥ 以上○名の出場で行われます。

【例 31 高さを競う種目の紹介基本パターン】

- ① [場所] では、○時から、[種目] [予選/決勝] が行われます。
- ② プログラム○ページ（反復）。
- ③ この種目の [大会] 記録は○m○○です。
- ⑤ 出場選手を申し上げます。○番、○○君、[所属]。
（以下順に出場選手すべてを紹介）
- ⑤ 以上○名の出場で行われます。
- ⑥ なお、最初の高さは○m○○で、以下○cm ずつバーが上げられます。

【例32 砲丸投の紹介例】

- ① プログラム113ページ（反復）です。
- ② 12時30分から、織田ポール下で行われます、女子砲丸投、決勝の出場者をご紹介します。スクリーンと併せてご覧下さい。
- ③ この女子砲丸投 日本記録は、本日も出場しています健祥会の豊永さんが昨年つくりました16m46。大会記録は19m40です。
- ④ 出場者を投てき順にご紹介いたします。
第1投てき者、30番、篠崎浩子さん、群馬総合ガード。
第2投てき者、84番、市川貴子さん、国土舘クラブ。
第3投てき者、94番、寺戸清子さん、島根大学。
(以下最後まで)
- ⑤ 以上 12 名の出場で行われます。
- ⑥ 赤いラインは日本記録の 16m46。黄色いラインは大会記録 19m40 を示しています。

〔注〕 必要に応じて、日本記録等を示すライン、記録表示盤の位置や表示方法、などについて説明する。

3 途中経過・描写等

(1) トップ 8

- ① トップ 8 からは試技順が変更となり、成績下位の競技者から試技を行うので、より迅速かつ正確な情報収集に努めるよう注意する。
- ② コンピューターシステムが使用されている競技会では、モニター上で確定されたと同時に発表して構わない。
- ③ コンピューターシステムが使用されていない競技会では、事前にフィールド審判員と打ち合わせを行い、トップ 8 が決まった段階でアナウンスに必要な情報を回付してもらうように要請しておくことが必要である。フィールド審判員から情報の回付が難しい場合には、3 回目の試技の途中になったらアナウンサー（補助員）が直接ピットに行き、トップ 8 の情報を競技進行にあわせて収集する。その際、ワイヤレスマイクを用いれば、より迅速に発表ができる。
- ④ 競技の状況を描写するためにも、アナウンサー（補助員）が一跳一投の結果を手許で記録する必要があるが、フィールド審判からの情報もなく、ピットにも情報確認に行けない場合には、手許の記録からトップ 8 を紹介する。
- ⑤ 記録がわからない場合でも、最低限、トップ 8 の競技者名は紹介する。
- ⑥ 競技の進行を止めてしまうことになるので、避けるべきではあるが、競技者を並べてトップ 8 を紹介する場合があるので、事前に関係部署の審判員と打ち合わせしておく。
- ⑦ 走幅跳、三段跳では記録順位表示板（トップ 8 表示板）を、投てき競技ではナンバー（または試技順）が書かれたペグ（表示板）を使用することが多いので、その旨をアナウンスした方が観衆には親切である。
- ⑧ 同様に、プログラムのどの辺りに記載されているかを示しながらアナウンスした方が、観衆にはわかりやすい。

【例 33 トップ 8 紹介基本パターン】

- ① プログラム〇ページ。
- ② 〇時から、〔 場所 〕で行われております、〔 種目 〕決勝は、3回目までの試技が終了しまして、トップ 8 が決まりました。
- ③ トップ 8 の選手を（3回目までの記録とあわせて）4回目以降の試技順に紹介します。
第 1 跳躍（投てき）者、上から〇番目、〇番、〇〇君、〔 所属 〕、〇m〇〇。
第 2 跳躍（投てき）者、下から〇番目、〇番、〇〇君、〔 所属 〕、〇m〇〇。
（以下順に 8 名紹介）
- ④ 以上 8 名によりまして、〔 種目 〕決勝はトップ 8、4 回目に入ります。

【例 34 走幅跳のトップ 8 紹介例】

- ① それでは、正面スタンド前にご注目下さい。
- ② ただいま 3 回の跳躍を終えまして、女子走幅跳はトップ 8 が決定しました。その選手を、4 回目からの跳躍順に紹介いたします。
- ③ プログラムは 22 ページです。
- ④ 122 番、狭川さん、PEEK。3 回までに 5m95。
200 番、湊さん、鳥取県 S C。 6m11。
94 番、黒田さん、ユニバー S C。 6m18。
344 番、佐藤さん、福岡大学。 6m23。
357 番、花岡さん、成田国際高校教諭。 6m32。
87 番、岡山さん、ジュニア J O C。 6m33。
175 番、池田さん、スズキ。 6m38。
そして最後に、57 番、榊見さん、九電工。 6m53。
- ④ 正面スタンド前の女子走幅跳決勝は、これから 4 回目の跳躍。どうぞ皆さん、大きな声援をお願いいたします。

(2) 途中経過の描写

- ① 決勝では試技の一跳一投ごとにアナウンスするようにしたい。タイミングは、次の競技者がピット内に立つまで（砂場の整備中等）に行うこと。その試技以前に観衆の注目を促すことがポイントである。（時間に余裕がある場合は 1 回目から一跳一投の様子をアナウンスする。）走幅跳や三段跳では次の試技者 2～3 名が助走路内に待機している場合があるが、この場合には、判定員が準備完了を示す白旗を振り下ろすタイミングに合わせるとよい。
- ② 競技者の集中を妨げないように、タイミングや言葉には十分に注意し、簡潔に表現する。
- ③ 距離を競う種目と高さを競う種目では、アナウンスのポイントが若干異なる。（観衆にとって、距離を競う種目は「アナウンスがないとわからない」が、高さを競う種目は「アナウンスがなくても見ていればわかる」）
- ④ トラック競技の合間にフィールド競技の描写を行うことが多いので、他のアナウンサーと連携をとりながら行う。
- ⑤ ワイヤレスマイクを活用して、ピットでアナウンスすると、より臨場感のあるアナウンスが可能になる。ただし、他の競技の進行との関係があるのでアナウンサー間の連携がより重要となる。
- ⑥ 今シーズンの成績や過去の成績等（「日本記録保持者」「昨年の日本選手権獲得者」等のコメント）を紹介することは大会を盛り上げる効果があるが、タイミング

に留意の上、簡単に紹介する。

- ⑦ 高さを競う種目でバーを落とした場合には、「失敗しました」等と余計なコメントは加えない。むしろ「まことに惜しい跳躍でした」「あと2回のチャンスがあります」等の前向きな表現を用いること。

【例 35 距離を競う種目の描写基本パターン】

■ 競技開始

- ① [場所] では [種目] 決勝が競技開始です。
- ② (紹介) ○番、○○君、[所属]。
(試技～計測～記録表示)
(結果) ○○君の1回目は○m○○。
(紹介) 続いて、○番、○○君、[所属]。
以降、(試技) (結果) の繰り返し。

■ 1回目終了時

- ① [種目] 決勝は2回目の試技に入ります。
- ② 1回目では [所属] の○○君が○m○○をマークして、現在トップ。
次いで [所属] の○○君が○m○○、
[所属] の○○君が○m○○と続いています。

■ 2回目終了時

- ① [種目] 決勝は3回目の試技に入ります。
- ② 2回目までを終わって、現在のトップは○m○○をマークしている [所属] の○○君。
- ③ これを [所属] の○○君が○m○○、[所属] の○○君が○m○○で追う展開になっています。

■ 3回目終了時

(トップ8発表)

■ 4回目以降

- ① (紹介) 続いての跳躍(投てき)は、[所属] の○○君。これまでに○m○○をマークして、現在、第○位。(トップとは○cmの差)
- ② (試技～計測～記録表示)
- ③ (結果) ○○君の○回目は○m○○。
(記録を伸ばして、第○位。トップとの差は○cm。)
(記録が伸びなかった場合には余計なことは言わない)

【例 36 高さを競う種目の描写基本パターン】

■ 競技開始

- ① [場所] では [種目] 決勝が競技開始です。
- ② 最初の高さは○m○○です。
(紹介) ○番、○○君、[所属]。
(試技)
(結果) ○○君、○m○○を1回目に成功。(失敗しても余計なことは言わない)
(紹介) 続いて、○番、○○君、[所属]。
以降、(試技) (結果) の繰り返し。

■ 2回目

- ① [種目] 決勝は○m○○の2回目に入ります。
- ② 1回目では○○君、○○君、… ○名が成功しています。

- ③ まず、（紹介）（試技）（結果）繰り返し。
- 次第にバーが上がって
- ① [種目] 決勝は○m○○にバーが上がります。
- ② この高さには○○君、○○君、…○名が挑戦します。
- ③ まず、（紹介）（試技）（結果）繰り返し。

- 【例 37 走高跳の新記録挑戦時のアナウンス例】**
- ① 男子走高跳決勝は、バーの高さが 2 m25 に上がります。
- ② この高さは大会記録への挑戦となります。
- ③ 富士通の醍醐君が挑戦します。

- 【例 38 新記録誕生時のアナウンス例】**
- ① （結果が出た直後に）16m84。日本新記録の誕生です。
- ② 国士舘大学の森さん、16m84。見事な日本新記録です。

- 【例 39 他競技との関係で描写の時間が確保できない場合のアナウンス例】**
- ① トラックでは間もなく男子 800m 競走決勝が始まりますが、第一曲走路内側で行われている男子ハンマー投決勝は、このあとファイテンの土居君、群馬総合ガードの野口君、ミズノの室伏君（2～3 名程度を紹介）と続きます。
- ② それではトラック競技をどうぞ。

〔注〕 1 描写の時間が十分確保できない場合には、このような言い方で観衆の注意を喚起し、時間が確保できるところで改めて描写する方法も効果的である。

2 まったく時間がない場合には、「走幅跳です」「どうぞ走幅跳を」等の一言を挿入する方法もある。

- 【例 40 トラック競技と重なった場合のアナウンス例】**
- ① トラックでは女子 200m 競走決勝のスタート時刻ですが、フィールド競技、男子棒高跳決勝は、ニシの澤野君が、日本記録に挑戦します。
- ② 横山君が跳躍を行ってから、トラック競技のスタートとさせていただきます。

〔注〕 走高跳、棒高跳で大会記録等の好記録が期待できる競技者が試技を行うタイミングと、トラック競技のスタート時刻とが重なった場合には、フィールド競技を優先させて、トラック競技のスタートを若干遅らせる工夫が必要である。トランシーバー等で出発係との連絡がとれない場合には、臨機応変にこのようなアナウンスを加える。

4 競技終了

- (1) 最後の試技終了後、競技が終了したことを告げるとともに、優勝者を紹介したり、健闘を称える内容の締めくくりのアナウンスをする。
- (2) 距離を競う種目では、「誰が、何回目、何m跳んだ（投げた）か」が紹介のポイントである。状況に応じて「日本新記録（大会新記録）をマークしての優勝」「2年ぶり4回目の優勝」等のコメントを挿入する。2等以下の競技者でも、日本新記録や大会新記録等の好記録をマークしている場合もあるので注意を要する。
- (3) 高さを競う種目では、最後の競技者が3回失敗することで競技が終了することが一般的であるが、「失敗した」等のマイナスイメージの表現を避けるよう心がける。
- (4) 予選の場合は、予選通過標準記録を突破した競技者が何名いるかをアナウンスする。

【例41 砲丸投の競技終了アナウンス例】

- ① 女子砲丸投決勝は、競技終了です。
- ② ご覧の通り、国士舘大学の森さんが、5回目に16m84の日本新記録をマークして優勝いたしました。
- ③ 森さん、おめでとうございます。

【例42 他種目等と重なって描写ができなかった場合の競技終了アナウンス例】

- ① この間に、正面スタンド前で行われておりました男子の走幅跳決勝は、競技を終了しています。
- ② 447番、チームミズノの菅井君が、2回目に追い風参考ながら8m13をマークして初優勝いたしました。
- ③ 優勝した菅井君には花束が贈られます。菅井君おめでとうございます。

[注] スポンサーから花束が贈呈されるケースでは、現場（報道係、表彰係）と渡すタイミングや渡す場所などについて、連携を密にして行うことが必要である。

【例43 最終競技者がファウルの場合の競技終了アナウンス例】

- ① 正面スタンド前で行われておりました女子の走幅跳決勝、すでに優勝を決めている、九電工の梶見さん、最後に大きなジャンプを見せてくれましたが、残念ながら赤い旗が挙がってしまいました。
- ② それでも梶見さん、5回目に6m57の自己ベストをマークして、初優勝に花を添えました。
- ③ 優勝した梶見さんには花束が贈られます。梶見さんおめでとうございます。

【例44 走高跳の競技終了アナウンス例】

- ① 第二曲走路の内側で行われておりました、女子走高跳決勝。1 m91の3回目、大阪陸協の福本さん非常に惜しい跳躍でしたが、残念ながら赤い旗が挙がっています。女子走高跳は、競技終了です。
- ② 優勝いたしました福本さんは、本日1 m86をただ1人成功したあと、一挙にバーを5 cm上げまして、オリンピックB標準、1 m91に挑戦しました。
- ③ 優勝記録は1 m86。福本さん、3年連続3回目の優勝おめでとうございます。

5 成績発表

(1) 予選

- ① 予選通過者の発表は、プログラム記載順にアナウンスした方が聞きやすいが、記録・情報処理員から回付されるリザルトやスクリーンに表示されるリザルトは、記録順にならざるを得ないことが多い。そのため、プログラムのどの辺りに記載があるか示しながらアナウンスすることが必要である。
- ② 予選通過標準記録が設けられ、それを越える競技者が12名以上であれば、全員決勝に進出できるので、全員を紹介する。それを越える競技者が12名に足りない場合は、予選成績から追加補充されるので、その旨説明する必要がある。

距離を競う種目の最終枠で同記録が出た場合、それらの競技者の2番目の記録で、それでも決められない場合3番目の記録で決められる。

高さを競う種目の最終枠で同記録者が出た場合、(i)同記録になった高さでの試技数のもっとも少なかった競技者。(ii)それでも決められなかった時は、試技全体で無効試技数のもっとも少なかった競技者。である。
- ③ 予選が同時に行われる跳躍競技等では、全体が揃うのを待って、通過者を確認した上で発表する。予選が行われる時間帯が異なる場合には、終了した順に通過競技者を発表して行き、最終組終了時に改めて決勝進出者全員を紹介する。

その際、通過標準記録突破者が12名に満たなかったならば、追加補充者を付け加えて発表する。
- ③ 成績発表の際、「記録」等の用語が紛らわしい場合は省略してもよい。

【例 45 距離を競う種目の予選の成績発表基本パターン】

- ① プログラム〇ページ（反復）。
- ② 〇時から〔場所〕で行われていました、〔種目〕、予選の結果、予選通過者を申し上げます。
- ③ 予選通過標準記録〇m〇を超えた（選手と、〇m〇〇（実質的な予選通過記録）以上をマークした）〇名が決勝に進出します。
- ④ 予選〇組の通過者は、プログラム記載順に、
〇番、〇〇君、〔所属〕、〇m〇〇、（風）。
〇番、〇〇君、〔所属〕、〇m〇〇、（風）。（以下順に）
- ⑤ 予選〇組の通過者は、プログラム記載順に、
〇番、〇〇君、〔所属〕、〇m〇〇、（風）。
〇番、〇〇君、〔所属〕、〇m〇〇、（風）。（以下順に）
- ⑥ 以上〇名が、〇時から行われる決勝に進出します。

【例 46 走幅跳予選の成績発表例】

- ① スクリーンをご覧ください。先ほど終了しました、男子走幅跳、予選の結果、並びに決勝進出者を発表いたします。プログラム94ページ（反復）です。
- ② 男子の走幅跳予選は、通過標準記録7m15で行われました。予選第1組では4名、第2組では5名、合わせて9名がこれをクリアいたしました。従って7m09以上の3名を加えた12名が決勝進出となります。
- ③ まず予選第1組の通過者は、
上から 6番目、 939番、石橋君、京都両洋。記録7m32、向い風0.6m。
上から29番目、 916番、長尾君、斐田。 7m22、向い風0.8m。
一番下、 92番、皆川君、白樺学園。 7m20、向い風1.1m。

上から23番目、880番、長谷川君、宇治山田商業。7 m18、追い風1.5m。
ここまでが標準記録を突破しています。そして

上から18番目、清水君、静岡市立。7 m10、向い風1.96m。

- ④ 以上5名が、予選第1組の通過者です。以下の記録はスクリーンをご覧ください。
- ⑤ (画面表示が変わったら) 続いて、スクリーンは予選第2組の結果です。
- ⑥ 予選第2組の通過者は…(以下略)。

[注] 1 プラスαが生じた時は、その概要を先に説明するとよい。

2 第1組、第2組、連続して発表することが望ましい。

【例47 棒高跳予選の成績発表例】 IH

① スクリーンをご覧ください。先ほど終了しました、男子棒高跳、予選の結果、並びに決勝進出者を発表いたします。プログラム92ページ(反復)です。

② 男子の棒高跳予選は、通過標準記録4 m80で行われました。予選第1組、第2組合わせて14名がこの高さに挑戦いたしましたが、4 m80をクリアした選手は、第1組では4名、第2組では5名、合計9名でした。

③ 従いまして、その前の高さ4 m70を2回目にクリアした伊奈の川田君、観音寺第一の山田君。そして4 m70を3回目でクリアした3名のうち、無効試技数が一番少なかった長崎日大の長濱君。以上の3名を加えた12名が決勝進出となります。

④ 予選の第1組の通過者は

(下から2人目)、773番、小野君、浜松商業。

(上から13番目)、390番、小島君、草加南。

(上から6番目)、1078番、小笹君、松江北。

(上から25番目)、229番、渡辺君、楯岡。

ここまでが、4 m80。通過標準記録を突破しています。そして、

(下から4人目)、296番、川田君、伊奈、4 m70。

(その3人上)、1462番、長濱君、長崎日大、4 m70。

この2人を加えました6名が、予選第1組の通過選手です。

⑤ 以下の結果はスクリーンをご覧ください。

[注] 高さを競う種目では、同じ記録でも成績(順位)は異なる(第180条⑭、第181条⑧)ので注意が必要である。

【例48 円盤投予選の成績発表例/競技開始時刻が異なる場合】

① スクリーンをご覧ください。先ほど終了しました、女子やり投、予選第2組の結果、並びに決勝進出者を発表いたします。プログラム150ページ(反復)。

② 女子やり投予選は、通過標準記録44m00で行われました。予選第1組では4名、この第2組では6名、合わせて10名がこれを突破しています。従いまして、43m51以上を投げた2名を加えた12名が決勝進出となります。

③ 予選の第2組の通過者を紹介します。

(上から15人目)、86番、右代さん、札幌第一、47m94。

(上から23人目)、397番、中野さん、柏中央、45m51。

(上から20人目)、821番、木積さん、東大阪大敬愛、45m36。

(一番下)、1071番、村上さん、今治明德、45m19。

(上から27人目)、666番、金原さん、袋井、44m23。

(上から16人目)、921番、仙木さん、岡山東商業、44m13。

以上6名が、予選第2組の通過選手です。

④ 以下の結果はスクリーンをご覧ください。

- ⑤ そして、残りの2名は先ほど紹介した予選第1組の中から選出されます。
 上から29番目、956番、岡場さん、就実。43m92。
 上から2番目、790番、成井さん、大阪成蹊女子、43m51。
 予選通過標準記録を突破した4名を加え、6名が予選1組から通過しました。

[注] スクリーンが利用できる場合、改めて予選第1組の結果を表示してもらおうとなおよい。

(2) 決勝

- ① 上位の成績順に発表するが、プログラムのどの辺りに記載されているかを示しながらアナウンスした方が観衆は記録しやすい。
 ② 時間に余裕があれば、何回目の試技で記録されたのかをアナウンスする。

【例 49 距離を競う種目の決勝の成績発表基本パターン】

- ① プログラム〇ページ（反復）。
 ② 〇時から、〔場所〕で行われていました、〔種目〕、決勝の結果を申し上げます。
 (少し間を置いて)
 ③ 1等、(一番下)、〇番、〇〇君、〔所属〕、記録〇m〇〇、(風)、〇回目。
 2等、(上から〇番目)、〇番、〇〇君、〔所属〕、記録〇m〇〇、(風)、〇回目。
 3等、(真ん中あたり)、〇番、〇〇君、〔所属〕、記録〇m〇〇、(風)、〇回目。
 2等と3等は同記録ですが、セカンド記録により順位が決まっています。
 (以下順に)
 ④ 以上でした。

【例 50 高さを競う種目の決勝の成績発表基本パターン】

- ① プログラム〇ページ（反復）。
 ② 〇時から、〔場所〕で行われていました、〔種目〕、決勝の結果を申し上げます。
 (少し間を置いて)
 ③ 1等、(一番下)、〇番、〇〇君、〔所属〕、記録〇m〇〇。
 これは〔日本/大会〕新記録でした。
 2等、(上から〇番目)、〇番、〇〇君、〔所属〕、〇m〇〇。
 3等、(真ん中あたり)、〇番、〇〇君、〔所属〕、〇m〇〇。
 (以下順に)
 ④ 以上でした。

【例 51 走幅跳決勝の成績発表例】

- ① プログラム12ページ（反復）をお開き下さい。
 ② 先ほど終了しました、男子走幅跳、決勝の結果を申し上げます。スクリーンも併せてご覧下さい。
 (少し間を置いて)
 ③ 1等、18人目、447番、菅井君、チームミズノ。記録8m13。追い風3m。2回目。
 2等、下から2人目、149番、品田君、濃飛倉庫運輸。7m93。追い風1.2m。2回目。
 3等、上から4人目、141番、志鎌君、阿見AC。7m93。追い風0.6m。2回目。
 (以下順に)
 ④ 以下はスクリーンをご覧下さい。

【例 52 走高跳決勝の成績発表例】

- ① プログラム 21 ページ（反復）をお開き下さい。
- ② 先ほど終了しました、女子走高跳、決勝の結果を申し上げます。スクリーンも併せてご覧下さい。
(少し間を置いて)
- ③

1 等、真ん中やや下、	112 番、福本さん、大阪陸協。	記録 1 m86。
2 等、一番上、	155 番、藤沢さん、ファイテン。	1 m78。
3 等、4 人下	371 番、藪根さん、法政大学。	1 m75。

(以下順に)
- ④ 7 等は 2 人います。
上から 2 人目、
4 人下、

55 番、米津さん、オールホンダ。	1 m70。
127	

以下はスクリーンをご覧下さい。
- ⑤ なお、1 等になりました今井さんは、2 年ぶり 3 回目の選手権獲得です。おめでとうございます。

■混成競技

1 全般的な留意事項

- (1) 記録とともに、その種目の得点をアナウンスする。
- (2) 合計得点を常に意識してアナウンスする。
- (3) スクリーンがある競技場では、スクリーンの表示と紹介・成績発表のアナウンスを連動させる。
- (4) フィールド競技の試技は3回で終了するので、とくに一跳一投をアナウンスできるよう努力する。(トラック競技や他のフィールド競技の実施状況に注意し、正確・的確・迅速に行う。)
- (5) 手許に採点表、電卓を用意しておく。

2 紹介

- (1) 原則として第1種目の開始前に必ず紹介アナウンスをする。(プログラム記載順)
- (2) 第1種目がトラック競技の場合は、その組み合わせに従い、スタート前にレーン順に一人ずつ紹介してもよい。
- (3) 第2種目以降の試技順またはレーン順は、前・後半の最終種目以外は原則としてプログラムに記載されているため、省略してもよい。このことを断った上で、スクリーンの表示等と併せて簡潔に紹介する。
- (4) 前半の最終種目・後半の最初と最終種目は、その開始前にそれまでの合計得点と併せて改めて紹介し、観衆の注目を喚起する。

【例 53 第1種目開始前にプログラム記載順に紹介する例】

- ① まもなく11時から、十種競技最初の種目の100m競走が始まります。
- ② プログラム11ページ(反復)。
- ③ 男子十種競技の日本記録は7995点、大会記録は7874点、ともにミズノの金子宗弘君が1993年にマークしています。
- ④ 十種競技の出場者をご紹介します。(スクリーンと併せてご覧下さい。)
- ⑤ プログラム記載順に、第1レーン、2番、金子君、日本ウェルネス。第2レーン3番、田中君、モンテローザ …
- ⑥ 以上〇名の出場で行われます。

【例 54 後半最初のトラック種目の紹介例】

- ① トラックでは10時から十種競技の第2日最初の種目、110mハードルが2組行われます。
- ② プログラム16ページ(反復)。
- ③ 第1日目終了時点でトップにたったのは日本大学の池田君で3827点。池田君は第2組に出場します。それを68点差で追うのは東海大学の武田君3759点さらにモンテローザの田中君が3751点で続いています。武田君、田中君は第1組に出場します。
- ④ それでは、第1組の出場者をレーン順にご紹介します。
- ⑤ 第1レーン7番、谷本君、谷本農場。第1日は3543点 …
- ⑥ 以上〇名の出場で行われます。

3 途中経過・描写等

- (1) 途中経過・描写は、トラック競技とフィールド競技の描写に準ずる方法で行うのが基本である。ただし、得点の発表に留意が必要である。
※ 規則第 200 条⑨では、各種目終了時に各種目ごとの得点と累計得点を発表することとなっているが、参加者が多数で余裕がない場合は、上位者に限って発表したり、スクリーンを活用する等の工夫が必要である。ただし、前・後半終了時には得点合計を必ずアナウンスする。
- (2) 最終種目での上位争いや新記録誕生の期待がかかる時は、その得点差を記録に換算した場合「〇秒差」「〇m差」というように適宜アナウンスして盛り上げる。
- (3) コンピューターを介して各競技者の記録・得点が即座に入手できるのであれば、最終種目フィニッシュ後、「1着〇〇くん、4分35秒13、711点、合計6523点」「2着△△くん、4分38秒51、690点、合計6518点」のように順次発表していき、最後に「優勝は総合得点6523点〇〇くんの逆転優勝です。」とアナウンスするとよい。

【例 55 途中経過の速報例】 IH

- ① 七種競技の第3種目の砲丸投は2回目の投てきが行われています。
- ② 次の投てきは863番、神田さん、兵庫・園田。1回目に9m92で525点。
- ③ (記録が表示されて) ただいまの神田さんの記録は11m15。記録を大きく伸ばして605点を獲得しました。

【例 56 最

終種目開始前の上位の得点差を交えながらの盛り上げ例】

- ① スクリーンには十種競技の第9種目のやり投を終了した時点での総合成績が表示されています。プログラムは33ページ。
- ② 現在第1位はモンテローザの田中君で6945点、第2位は日本大学の池田君で6847点、その差は98点あります。最後に行われる1500m競走の記録に換算するとおおよそ6.5秒差、距離にすると50mほどです。
- ③ 1500mを得意とする池田君がどれほどの差をつけるか？それとも田中君が粘って逃げ切ることができるか？。どうぞこの2人の優勝争いにご注目下さい。

【例 57 記録の更新(新記録)誕生が期待される場合の盛り上げ方】 IH

- ① 女子七種競技はまもなく最後の第7種目、800m競走が行われます。
- ② 第6種目のやり投を終了した時点での現在のトップは、兵庫・園田の神田さん4260点。神田さんの自己記録4884点まであと624点。2分35秒67以内で走ることが必要です。
- ③ 神田さんの800mの自己ベストは2分28秒96。その更新は十分可能です。4900点を超えるのには、640点で2分34秒34以内。そして5000点突破のためには740点2分26秒33を切れるかどうかにかかってきます。
- ④ それでは、改めて七種競技の出場選手を、これまでの合計得点とともにご紹介いたします。どうぞ大きなご声援をお願いいたします。
- ⑤ (紹介が終わって) それではどうぞスタートにご注目を。

4 成績発表

- (1) 各種目のリザルトは必ずしもプログラムの記載順に記入されているとは限らない。観衆が書き込みやすいようにプログラム順にアナウンスすると親切である。(その際は「1着」「1等」等の順位はつけない。)
- (2) スクリーンやコンピューターを使用する競技会では、リザルトとスクリーンの表示がプログラム記載順とならない場合がある。その場合はスクリーンの表示と連動した発表とする旨あらかじめ断ってから、プログラムのどの辺りかも含めてアナウンスするとよい。
- (3) 成績発表の際、「時間」「記録」「得点」等の用語は紛らわしく、時間を短縮する意味でも省略すべきである。
- (4) 最終種目終了後の総合順位、合計得点の発表の際は、1位に限って各種目の記録、得点をアナウンスすると親切である。(新記録が誕生した時は必ず行う。)

【例 58 プログラム記載順の成績発表例】

- ① 結果の発表です。プログラム 25 ページ (反復) をお開き下さい。
- ② (少し間を置いて) 先ほど終了した女子 7 種競技やり投げの結果をプログラム記載順に申し上げます。
- ③ 1 番、辻井さん、茨城茗友クラブ、記録 45m08、得点 765 点、
- ④ 6 番、伊藤さん、小島プレス、 43m02、 725 点、
- ⑤ 10 番、内藤さん、日本体育大学、 36m00、 591 点…
- ⑥ (以下全員) 以上でした。

【例 59 スクリーンの表示に合わせた成績発表例】

- ① 結果の発表です。プログラム 12 ページ (反復) をお開き下さい。
- ② (少し間を置いて) 先ほど正面スタンド前で行われた十種競技・走幅跳の結果を記録順に申し上げます。
- ③ 上から 8 人目 17 番、武田君、東海大学、記録 7m02、追風 3.0m、得点 830 点、4 人上 9 番、田中君、国士舘大学、7 m00、追風 2.3m、814 点…
- ④ 以上でした。
(上位数名を発表して省略する場合) 以下はスクリーンをご覧の通りです。

【例 60 総合成績の発表例】

- ① プログラム 20 ページ (反復する) をお開き下さい。
- ② 先ほど 800m 競走で幕を閉じました女子七種競技の総合成績を申し上げます。
- ③ (少し間を置いて) 第 1 位、1 番上、11 番、中田さん、日本保育サービス、5576 点。7 年連続 7 回目の優勝を遂げました。その内訳は 100m ハードル 14 秒 12、961 点、走高跳 1 m63、771 点、砲丸投 11m23、610 点…
- ④ 第 2 位、上から 3 人目、7 番、浅津さん、中央大学、5163 点…
- ⑤ 以上でした。

■ 道路競技

1 全般的な留意事項

- (1) 最近、マラソン、駅伝等の道路競技会においても、アナウンサーが委嘱されるケースが多くなっている。これら道路競技会では、競技会の性格や観衆の数によってアナウンスの内容を十分吟味する必要がある。
- (2) 道路競技会でも、事前の出場競技者紹介とフィニッシュ後の成績発表等、通常の陸上競技会とほぼ同様のアナウンスで対応するケースが一般的である。国際大会や選手権大会等では、可能な限り事前に情報を収集して、観衆の興味をひきつけるアナウンスで会場を盛り上げることが求められる。主に以下のような情報を収集する。
 - ① 大会の1、2ヶ月前に発表される出場競技者（招待競技者）リストとそのプロフィール（プレス発表資料）
 - ② 大会1週間前あたりから主催・後援新聞社等の新聞紙上で連載される展望記事
 - ③ 大会直前に開催される招待競技者記者会見
 - ④ その他、大会のプログラムには、主催・後援新聞社の記者によるレース展開予想や主な見どころの解説、大会の歴史、コースの概要等が記載されているので、主催者を通じて事前に入手する。
- (3) テレビやラジオによる実況中継がある場合は、当日、競技場アナウンス席でそれらを活用できるよう機器類を準備する。（事前に主任会議等で確認し、準備されていないようであれば、アナウンサー側から要請した方がよい。）
- (4) 途中経過を描写する場合は、手許に道路地図を準備しておくとう便利である。
- (5) フィニッシュ後に放送局が優勝者のインタビューを行う場合は、事前にタイミング等について打ち合わせを行い、連携に漏れがないよう留意する。
- (6) 競技場スクリーン等を使用して協賛企業のCMが放映される場合、スタート前や後のサブイベントが開催される場合等については、主催者や広告代理店担当者とともに事前に入念な打ち合わせを行う。

2 スタート前

- (1) 大会の歴史や性格、歴代記録・歴代優勝者の紹介、当該シーズンのマラソン・駅伝界の概況、大会の見どころ（招待競技者など主な出場者）、気象状況等を紹介する。
- (2) 代表選手選考競技会を兼ねている競技会の場合は、選考基準や、代表に選ばれるためには当該競技会でどのような成績・記録を出す必要があるかについて解説することも必要である。
- (3) 気象状況については、記録を占う上で重要な要素となることから、最新の情報を提供する。
- (4) 大会の概要等についてはプログラムを活用するほか、出場者の抱負等は直前に開催される招待競技者記者会見等を通じて情報収集する。

【例 61 大会の歴史・歴代優勝者等の紹介例】

- ① この東京のレースは、81年以降22回目、東京NY友好大会は、東京都とNY市の姉妹都市提携20周年を記念して81年に第1回大会を開催して以来、奇数年に開催、今回で11回目の大会となります。
- ② 過去の大会を振り返りますと、世界で活躍した幾多の名ランナーが栄冠に輝いて

います。日本人選手では、瀬古利彦君、宗茂君、谷口浩美君、中山竹通君、森下広一君、外国人では、ジュマ・イカンガー君、アベベ・メコネン君などが歴代の優勝者に名前を連ねています。

- ③ 前回、99年の東京NY大会では、ゲルト・タイス君が2時間06分33秒のコースレコード、日本国内レース最高記録で優勝。日本人のコース最高は、同じ99年に2位に入った、旭化成の三木弘君の2時間08分05秒です。

【例 62 当該シーズンの概況、世界大会選考基準等の紹介例】

- ① さて、この冬のシーズンのマラソン界は、世界選手権の代表の座を誰が射止めるかに最大の注目が集まっています。
- ② 代表枠は5名ですが、代表選考方法が従来とは変更となり、選考指定レース、これは、福岡国際、別府大分、東京国際、びわ湖の4レースですが、この選考指定レースで2時間10分を切って、日本人トップになった選手が自動的に代表に選出されるシステムです。4大会で順当に2時間10分を切れば、4人の代表が決まり、残りの1人は3月の陸連理事会で決定されます。
- ③ すでに2つの選考レースが行われ、2人の選手が代表に内定しています。昨年12月3日の福岡国際マラソンでは、富士通の藤田敦史君が、2時間06分51秒の日本最高記録で優勝し、代表内定第1号となりました。藤田君は、36km手前から、シドニー五輪金メダリストのゲザハン・アベラ君（エチオピア）を突き放して、以降独走、99年のベルリンで犬伏孝行君が出した従来日本最高2時間06分57秒を6秒更新する、世界歴代11位、2000年世界ランキング第2位の好記録でフィニッシュしました。
- ④ 続く2月4日の別府大分毎日マラソンでは、エスビー食品の西田隆維君が、2時間08分45秒の日本歴代11位の記録で優勝し、2人目の代表に内定しました。藤田君、西田君ともに駒沢大学の出身、箱根駅伝でも活躍、2人ともマラソン3回目での栄冠です。

【例 63 大会の主な見どころの紹介例】

- ① 本大会で、3人目の世界選手権代表入りを果たすための最低条件は2時間10分を切ることですが、日本勢で唯一9分台の記録を持つのが、旭化成の渡辺共則君です。94年に立命館宇治高校から旭化成に入社した24歳。99年の防府マラソンで、27kmから独走の2時間09分40秒で優勝して脚光を浴びましたが、その後、故障が多く、国際舞台には立てませんでした。今回は5回目のマラソン挑戦で世界を目指します。
- ② スピードに絶対の自信を持つのが、富士通の高橋健一君です。秋田・花輪高校から順天堂大学に進み、ダイエーを経て富士通に移籍した28歳。昨年の東京ハーフマラソンで1時間00分30秒の日本最高記録をマーク、元旦の全日本実業団駅伝では最長の2区で12人抜きを演じて区間賞を獲得。一昨年のこの大会では中間点過ぎまで世界最高を上回るペースで飛ばしながら途中棄権しましたが、スピードに加えてスタミナをつけた今大会では、一気に逃げ切る可能性を秘めています。
- ③ （以下、国内、外国有力競技者のプロフィール紹介）
- ④ 有力選手は、2時間04分台から05分台の目標タイムを口にしており、レース展開次第では、とてつもない大記録が誕生する可能性もあります。

【例 64 コース紹介例】

- ① 続きまして、本日のコースをご紹介します。スタートして、トラックを2周と約300m走ってマラソンゲートからマラソンコースに出ます。外苑東通り、新宿通りから四谷見附を左折して外堀通りに入って北東に進み、水道橋を右折して8km過

ぎから日比谷通り、さらに田町から第一京浜国道を南に走ります。折り返し点は大森海岸交番前で、往路・復路とも同じコースです。

- ② 通常、日比谷通りから第一京浜の往路は追い風、復路は向い風となります。また、風もさることながら、コースの大きな特徴は、四谷見附と水道橋の間、序盤と終盤の坂と言われています。1.5km から7 km までに約30m下り、復路の35km から40.5km までは同じ高さを上ることになります。前半の下りでリズムに乗れるか、さらに、最大の難所である終盤の上りでの駆け引きが勝負のポイントになると思われれます。

3 スタート直前のアナウンス、紹介等

- (1) 観衆や競技役員の利便を考慮して、区切りのよい時刻に時刻規正を行う。時刻規正はラジオの時報等を活用するが、事前に予告（「1分前」、「30秒前」等）した上で行う配慮が必要である。
- (2) 紹介については、出場競技者が多数の場合は、招待競技者のみを紹介したり競技場スクリーンでの紹介を併用する等の方法により、手際よく行う。
- (3) 紹介は時間に余裕をもって行う必要があるが、紹介終了からスタートまで間隔が開くと間延びすることもあるので、あらかじめ紹介アナウンス所要時間の見当をつけておく等の準備も必要である。
- (4) 紹介の際、招待競技者や有力競技者については、自己最高記録や簡単なコメントを付す等の工夫をしたい。
- (5) スタート直前に、「1分前」「30秒前」「10秒前」等の予告を挿入する。とくに多数が出場する競技会では、出発係がハンドマイクで言うよりアナウンスで挿入する方が効果的である。

【例 65 国外招待競技者紹介】

- ① それでは、本日の招待選手をご紹介します。プログラムをお持ちの方は8ページをお開き下さい。
- ② まず、国外招待選手。1番、テスファエ・ジファル君、エチオピア。99年アムステルダムで世界歴代8位・初マラソン世界最高の2時間06分49秒をマーク。昨年の世界ハーフでは第3位に入っています。
- ③ 2番、テスファエ・トラ君、エチオピア。シドニー五輪銅メダリスト、自己ベストは世界歴代13位の2時間06分57秒、これも初マラソンの記録です。

【例 66 国内招待競技者紹介】

- ① 続いて、国内招待選手をご紹介します。
- ② 21番、エリック・ワイナイナ君、コニカ。アトランタ五輪銅メダル、シドニー五輪銀メダル、95年のこの大会で優勝しています。
- ③ 22番、渡辺共則君、旭化成。99年の防府マラソンで2時間09分40秒をマーク。本大会、日本人選手唯一のサブテンランナーです。
- ④ 23番、尾方剛君、中国電力。ベスト記録は2時間11分43秒、元旦の実業団駅伝では2区で9人抜きを演じています。山梨学院大学出身。
(以下、全員を紹介)
- ⑤ 招待選手は以上国外10名、国内9名です。

4 途中経過・描写等

- (1) 競技場をスタートする場合は、道路に出るまでの間、改めて見どころ等を簡単に紹介して盛り上げる。
- (2) 同一競技場発着レースの場合など観衆が競技場で競技者のフィニッシュを待つような状況の場合は、各関門等から情報収集を行い、レース展開や途中時間を適宜紹介する。また、テレビ等の実況中継がある場合は、これらの情報も活用する。
- (3) フィニッシュでは、最後の力走をする競技者の描写に加えて、レース経過、日本記録や競技者の自己最高記録との比較等を紹介して盛り上げる。

【例 67 スタート直後の描写例】

- ① 東京NY友好・2001 東京国際マラソン、国外招待選手 10 名、国内招待選手 9 名、そして、一般参加選手 149 名、合計で 168 名の選手がスタートいたしました。
- ② 今年 8 月の第 8 回世界陸上競技選手権大会代表選手選考競技会を兼ねたこのレース、トップでこの競技場に戻って来るのは、2 時間 10 分を切って代表の座を射止める日本人選手でしょうか、それともオリンピックのメダリストでしょうか、いずれにしてもハイレベルでの優勝争いが期待されます。
- ③ 一昨日行われました記者会見では、目標タイムについて、ワイナイナ君が 2 時間 05 分台、ジファル君、トラ君のエチオピア勢が 2 時間 04 分台と答えるなど、有力選手は世界最高記録更新に闘志を見せています。世界最高記録は 2 時間 05 分 42 秒ですが、レース展開次第では前人未踏の大記録が誕生する可能性もあります。
- ④ 対する日本人選手は、渡辺共則君が「最後まで優勝争いをして 8 分台を出したい」と意欲を見せる一方、3 回目のマラソンで代表を狙う尾方剛君も、昨年から大変好調でその勢いに注目が集まっています。さらに、高橋健一君は「まずは自己ベストが出ればいい」と控えめではありますが、スピードには絶対の定評があります。
- ⑤ 一昨年この大会では、高橋君が 30km まで世界最高のペースで沿道を沸かせましたが、本年も、ハイスピードで最後まで押し切るようなレースを期待したいと思えます。

【例 68 フィニッシュ】

- ① 先頭で競技場に戻って来たのは、富士通の高橋健一君です。このトラックを 1 周と 4 分の 1 走ると栄光のフィニッシュラインです。
- ② 高橋君、今日も積極的なレース展開で、30km で尾方剛君を突き放し、35km まで日本最高記録を上回るペースで走りましたが、その後ペースが落ちました。世界選手権の代表権を確実にするための条件である 2 時間 10 分の突破は難しくなっています。しかし、これまでの自己記録は 98 年のびわ湖で出した 2 時間 15 分 27 秒ですので、自己記録の大幅な更新は確実です。
- ③ 高橋君は 9 回目のマラソンで、優勝は 2 回目、この東京のレースで日本人選手が優勝するのは、97 年の清水康次君以来 4 年ぶりです。

4 成績発表

- (1) 上位入賞者については、リザルトが届き次第、速報する。
- (2) 観衆がプログラムに記入しやすいように、プログラムページ、プログラムのどの辺りに記載されているか等に触れながらアナウンスする。

【例 69 成績発表】

- ① それでは、10 着までの正式な結果を申し上げます。
- ② 1 着、28 番、高橋健一君、富士通。時間、2 時間 10 分 51 秒。
2 着、1 番、テスファエ・ジファル君、エチオピア。時間、2 時間 11 分 07 秒。
(以下、順に紹介)
- ③ 以上でした。
- ④ なお、この結果はスクリーンにも表示されています。併せてご覧下さい。

■表彰・式典

1 表 彰

(1) 事前の準備

- ① 入賞者の表彰台への誘導の仕方、渡すもの、渡す順序、退場の仕方等 表彰方法について表彰係と十分打ち合わせる。
- ② 音楽を使用する場合は、事前に聴いておく。また、タイミング等について音楽担当者と十分打ち合わせる。
- ③ 一般表彰、開・閉会式ともにアナウンス原稿を作成する。
- ④ スクリーンを使用する場合は、スクリーンにタイトル等を出すタイミングを電光掲示係と事前に打ち合わせておく。また表彰時に優勝者の映像が映し出される場合があるのでスクリーンを見ながら表彰のアナウンスを行い、コメントを入れるとより効果的である。

(2) 留意事項

- ① 表彰実施のタイミングをよく考え、競技進行を妨げず、また競技者を長時間待たせないようにする。原則として、競技中には行わない。
- ② 表彰は成績発表後に行う。
- ③ 決勝リザルトは別に整理しておき、いつでもアナウンスできるようにする。
- ④ 入賞者の氏名、所属、表彰者の氏名、肩書き、優勝杯（楯）等の寄贈者名等をあらかじめ確認をしておく（必ずふりがなを振っておく）。表彰係にこれら事項を記入した表彰用紙を作成してもらう。
- ⑤ リレーの場合、賞状、メダル等をどのように渡すのか事前に確認しておく（一人一人渡すのか、代表に渡すのか）。
- ⑥ 対校競技のように校歌を演奏し、部（校）旗を掲揚するような場合には、とくにその実施方法に落ち度がないように入念に準備しておく。
- ⑦ 大会によって、表彰者の氏名、肩書き等の言い方、敬称の有無が異なるので、事前に確認しておく。
- ⑧ 被表彰者の過去の優勝歴、他種目の制覇状況等を把握し、適宜挿入する。
- ⑨ ジュニアオリンピック等では、現役の日本代表選手等が表彰者を務めるケースがあるが、このような場合には、その趣旨を考慮して表彰者のプロフィールを挿入して盛り上げることが必要である。

(3) 表彰アナウンス要領

【例70 関東インカレの例】

- ① メインスタンド前では、男子100m競走の表彰が行われます。
- ② 表彰いたしますのは、関東学生陸上競技連盟〇〇〇〇会長です。
- ③ 第1位、斎藤 仁志君、筑波大学。10秒45。
賞状、メダル、続いて〇〇〇〇氏寄贈のトロフィーが贈られます。
- ④ 第2位、藤光 謙司君、日本大学。10秒52。
- ⑤ 第3位、木原 博君、早稲田大学。10秒61。
- ⑥ 優勝いたしました斎藤君の栄誉をたたえて、筑波大学の校歌を演奏し、部旗を掲揚いたします。
- ⑦ 以上で男子100m競走の表彰を終わります。おめでとうございます。

【例71 日本選手権の例】

- ① ただ今から、大会新記録の誕生いたしました女子走幅跳の表彰を行います。（表彰団行進開始）
- ② 大会新記録に輝きます女子走幅跳の表彰です。
- ③ 本年度女子走幅跳、選手権獲得者、花岡麻帆さん、Office24。6 m78。見事な。
- ④ 賞状、選手権章が財団法人日本陸上競技連盟理事〇〇〇〇委員長から贈られました。
- ⑤ 第2位、池田久美子さん、福島大学。6 m78。これも見事な日本新記録、世界選手権A標準突破です。
- ⑥ 第3位、羽生美帆子さん、デンソー。6 m25。
- ⑦ （以下8位まで）
- ⑧ 優勝した さんの栄誉を讃え、「高体連の歌」を演奏し、同校部旗を掲揚します。皆様掲揚塔にご注目下さい。
- ⑨ 以上で大会新記録の誕生いたしました女子走幅跳の表彰を終わります。おめでとうございます。スタンドの皆さん、どうぞもう一度、大きな拍手をお願いいたします。

注) 肩書きが2つある場合、大きい方を先に出し、名前、2つめの肩書きの順に行うとまとまりがよい。

2 式典

式典関係には開・閉会式、栄章授与式、表彰等がある。式典は大会を盛り上げる大事なものであり、それに関連する人名等の呼び方の誤りは許されないものである。従って慎重に取り組まなければならない。

(1) 事前の準備

- ① 必ず原稿を作り、誤りのないようにする。
- ② 氏名の読み方は本人に確認するようにする。
- ③ 音楽担当者と打ち合わせをしておき、音出しのタイミングを決めておく。（できるだけ流す音楽を事前に聴いておくようにする。）

(2) 留意点

- ① プレス関係者が場内に入ることが多いので、アナウンス席の位置取りを工夫する。
- ② 表彰等の場合、表彰者とのタイミングを合わせる。秩父宮章授与式等の場合、横に一人ついてもらい、被表彰者を間違えないようにする。
- ③ 音楽をバックに流す場合、横に担当者をつけるとよい。
- ④ 開会式で入場行進が長い場合、2人で行う方法もある。
- ⑤ 式典を盛り上げるように配慮する。

■その他のアナウンス

総務の指示または承認によって行うのが基本であり、雰囲気をこわすような一般のアナウンスはできるだけしないことが原則である。

1 留意事項

- (1) まず「喚起」。
- (2) 簡潔明瞭に。
- (3) 「書き言葉」と「話し言葉」は必ずしも同じではない。

2 実際のアナウンス要領

【例72 時刻の規正】

- ① あと1分で9時になります。役員・選手の皆さんはお手許の時計をお合わせ下さい。
- ② ただいま9時です。本日はこれにより進行させていただきます。

〔注〕 競技開始1時間前、30分前のように切れ目のよい時刻に行く。ラジオ、携帯電話を使用するとよい。

【例73 定時気象観測】

- ① 12時現在のグランドコンディションを申し上げます。
- ② 天候、晴れ。気温、23度。湿度、45%。風は、北北西の風、1.5mでした。

【例74 プログラムの変更】

プログラム変更の連絡をいたします。10時30分に予定されています男子4×100mリレー予選は、出場チームの関係で予選は行いません。13時30分決勝の時刻に決勝を行います。

【例75 閉会式の連絡】

間もなく閉会式が行われます。各校の皆さんは、開会式と同じ隊形でフィールドに整列して下さい。

【例76 競技開始前の練習（投てき種目）】

危険防止のため、投てき種目の練習は必ず競技役員の指示に従って行って下さい。

【例77 危険防止の呼びかけ】

間もなくフィールドでは、ハンマー投決勝が始まります。ハンマーには十分気をつけて下さい。また練習は競技役員の指示に従って行って下さい。

【例78 選手の呼び出し】

選手の呼び出しです。女子100m競走予選第3組 第4レーンを走りました選手は至急本部までおいで下さい。

【例79 被表彰者の呼び出し】

各種目の決勝で第3位までに入賞した選手は、競技終了後直ちに本部表彰係までおいで下さい。

【例80 競技時刻の遅れを取り戻すための注意喚起】

トラック競技は現在15分程遅れています。選手並びに競技役員の皆さん、遅れを取り戻すためにご協力下さい。

【例81 ハードルのセッティング】

次のトラック競技は男子110mハードルです。ハードルのセッティングに皆さんご協力下さい。

【例82 遺失物のお知らせ】

落とし物のお知らせです。フィニッシュ付近にスパイクが落ちていました。心あたりの方はアナウンサー席までおいで下さい。

【例83 車の移動】

次の車は大至急移動願います。正面玄関前に駐車している赤のパジェロ 練馬、え、300、56-44。この車を大至急移動願います。

※ 車種と色をアナウンスするとわかりやすい。

【例84 競技会のPR】

ご案内いたします。来る6月8日から10日まで、国立競技場で日本陸上競技選手権大会が行われます。多数の皆さんのご来場をお待ちしております。

【例85 プログラムの販売】

ご案内いたします。プログラムを〇〇〇円で販売しています。ご希望の方は正面玄関までおいで下さい。

IV 研究編

1 競技会の性格や規模に応じたアナウンスのあり方

陸上競技会はシーズンを通じて数多く開催されるが、それぞれの競技会の位置づけや規模、目的等に応じたアナウンスを実践することが求められる。

一口に陸上競技会といっても、世界選手権やオリンピックから、地域や学校単位の記録会まで、さまざまな規模や性格のものがある。出場する競技者やその競技の目的はそれぞれながら、いずれもが陸上競技の愛好者であることは間違いのない事実である。競技会で同じスタートラインに立つ以上、それぞれの競技者に対して常に平等であることが大きな前提条件であることを忘れてはならない。そして競技者がベストな状態で競技に臨むことができるような雰囲気をつくるのが、アナウンサーに期待される役割である。

このようなことを念頭に置きながら、以下、競技会の性格ごとに留意すべきポイントを整理した。

(1) 記録会

- ① 競技の進行に気をとられ単調なアナウンスになったり、フィールド競技を描写することもなく競技が終了しているケースが多いので注意を要する。
- ② 紹介については、参加者が多い場合は組数の紹介のみにとどめる。
- ③ 成績発表については、参加者数を勘案し、総務と協議してリザルトを掲示する等の便宜的方法をとる工夫も考えられる。
- ④ 成績発表を行う場合は、競技が行われた順に整理し、正確・迅速に行わなければならない。
- ⑤ プログラムにページが記載されていない場合や、リザルトが手書きで見にくいケースもあり、必ずアナウンス前に一読してから行う等、基本を忠実に守ることが必要である。

(2) 小中学生・定通制大会等

- ① 初心者が多いので、全般的に懇切丁寧にアナウンスする。
- ② 招集時刻、招集場所など競技注意事項に記載されている事項であっても、何回かアナウンスして不安を取り除く配慮が必要である。
- ③ 出場者が多くて過密な競技日程になっている場合は、常に競技の進行状況に留意する。
- ④ 全国規模の小中学生大会は、陸上競技の普及・強化の観点から重要な位置づけの競技会であり、「全国大会で名前が呼ばれた」「陸上競技で頑張った」「これからも続けたい」と思わせるようなアナウンスが求められる。競技者の記憶に残る盛り上げも大事な要素であるほか、可能な限り予選から氏名を紹介する等の配慮も必要である。

(3) 選手権大会

- ① 日本選手権、日本学生選手権等、伝統と権威のある大会であり、出場する競技者全員に対して公平になるようなアナウンスを心がける。
- ② 全国規模の選手権大会であれば記録も期待できることから、あらゆる場面を想定した入念な準備で大いに盛り上げることが可能である。
- ③ また、進行に際しては、競技日程を遵守する必要があるが、好記録が出た際のフ

ィールド競技とトラック競技の兼ね合いや、表彰、ベスト8の発表等、各部署との連携を保ちつつ判断する必要がある。

(4) 対抗戦（対校戦）競技会

- ① 対抗戦は2チーム（校）の対抗で行われるもの（例：早慶戦）、数チーム（校）が集まって行われるもの（例：インカレ）等がある。各種目の順位で得点を決め、その総合得点で勝敗や順位を決めるため、競技者個々の成績もさることながら、対抗得点争いに重きが置かれる。アナウンスに際しては、どちらか一方のチーム（学校）に偏った内容にならないよう配慮することが必要である。
- ② 結果の発表の後に得点、得点累計を加え、対抗（対校）意識を盛り上げるようにする。得点累計を自ら算出するように心がける。

【例 86 得点発表例】

- ① この結果、この種目の得点は、〇〇大学〇点、〇〇大学〇点、〇〇大学〇点でした。
- ② ここまでの累計得点は、〇〇大学〇点、〇〇大学〇点、〇〇大学〇点、〇〇大学〇点となります。

- ③ とくに最終種目に優勝がかかる場合は、最終種目開始前に得点累計を算出し、最終種目の順位が優勝争いにどのように関わるかについて解説して盛り上げる。

【例 87 最終種目開始前の得点経過紹介例】

- ① ここまでの総合得点は、筑波大学が96点でトップ、続いて第2位が順天堂大学で95点、その差はわずかに1点です。
- ② 優勝種目数は、ここまで筑波大学が5種目、順天堂大学6種目。
- ③ 従いまして、最終の1600mリレーで、筑波大学と順天堂大学のうち先にフィニッシュした方が総合優勝ということになります。

- ④ 対戦成績（過去の競技会でどちらが何勝しているか、昨年がどちらが何点で勝ったか等）を整理して随時アナウンスするほか、大学対抗戦等では、大学記録や自己記録等を事前に入手して、得点争い以外の話題も提供するとよい。

(5) 国 体

- ① 全国規模の競技会ながら、さまざまな層の観衆が来場している。中には初めて陸上競技を観るといふ観衆も数多いことから、種目の解説から出場者のプロフィールまで、平易な言葉で解説する必要がある。
- ② 都道府県対抗のため公平なアナウンスを心がけ、開催都道府県に有利なアナウンスととられないよう注意する必要がある。

(6) 国際大会

- ① 外国人アナウンサーが入る場合、時間的な余裕がなくなるほか、連携が難しくなるので、アナウンサーがリードするつもりで行う。
- ② 競技進行中には、通訳を介さず、外国人アナウンサーと直接話す方がスムーズに流れる。外国語が話せなくても、身振り手振りで意思疎通は可能である。

(7) 室内大会

- ① 観客が競技者の間近かに見られるという特性を生かし、種目の解説や技術、競技者の経歴等の紹介をして、大会を盛り上げる。
- ② 室内種目について記録等を事前に調査し、競技者のプロフィールとともに紹介す

る。室内の場合は、音響効果が屋外に比べて良いので、音量や共鳴等を考慮したアナウンスが必要である。

2 競技会ディレクターとしてのアナウンサーの役割

大規模競技会では進行担当総務員が配置され、競技進行の全体調整を行うようになった。その一方で、アナウンサーは従来からその一言一言が競技会全体に大きな影響を与えることから、状況判断には細心の注意を払っており、事実上のディレクターとしての役割を果たしてきた。進行担当総務員は、トラック競技とフィールド競技のどちらを優先するか、表彰をどのタイミングで入れるか等について瞬時の判断を要求される。このような現実を踏まえると、アナウンサーはより円滑な競技会運営を実現するために、進行担当総務員からの指示を待つだけではなく、自ら競技会の進行役を果たし、むしろ進行担当総務員に進言するという姿勢が必要である。

(1) 他部署との連携

- ① 通常の競技会では進行担当総務員が配置されないケースがほとんどである。実際にはアナウンサーがディレクターの役割を果たすことになる。
- ② アナウンサーは競技会全体に気を配り、目の前の状況を注意深く観察するとともに、次の展開を予測して、先を読んだ適切な判断をすることが必要である。
- ③ 関係部署との意思疎通は、肉声のほか、インカム、トランシーバー、ファックス、気送管、補助員によるメッセージ等、競技会の規模や競技場の特性に応じたさまざまな手段で行われる。いずれにしても各種情報機器の取り扱いには精通し、情報収集の方法を熟知していることが必要である。
- ④ アナウンサーから関係部署に対する一方的な指示ばかりではなく、状況によっては事前に協議を行うといったコミュニケーションが必要である。
- ⑤ 声をかけあったり、種目の優先順位をあらかじめ決めておく等、アナウンサー相互の連携にも留意する。
- ⑥ どのような場面で何を優先させるか等の判断は、マニュアル化できるものではないし、その場で臨機応変の判断をするしかないが、基本的な考え方やよくある事例については、機会をつくって関係部署が意思統一を図っておくべきである。

(2) 事例研究

- ① 走高跳の記録挑戦とトラック競技スタートの重複
 - ・ 走高跳とトラック競技のどちらを優先させるべきか、アナウンサーの瞬時の判断に委ねられる。
 - ・ 走高跳を優先させる判断をした場合、「走高跳にご注目下さい。そのあとにトラック競技がスタートいたします。」と挿入することで、観衆の注目を喚起するとともに関係部署にその判断を迅速に伝達する。
 - ・ 可能であれば、走高跳の「成功」「失敗」それぞれの状況を予測してスタンバイすれば完璧である。
 - 「成功」… ウイニングラン、記録のレベルを考慮した盛り上げ方等
 - 「失敗」… 何回目の試技か、3回目なら挑戦を称え激励の拍手を求めるか、競技終了なら締めくくりのアナウンスをするか等
- ② 表彰とトラック競技スタートの重複
 - ・ 競技日程や競技の進行状況にもよるが、トラック競技がスタート前であれば、表彰を挿入するという判断になるケースが多い。出発係、電光計時係、表彰係の

各部署と個別に連絡する時間的余裕がない場合が多いが、「男子 400m競走決勝の前に、メインスタンド前で、女子走幅跳の表彰が行われます。期待のトラック競技はその後です。」等のアナウンスで、観衆及び関係部署に同時に伝える工夫が必要である。

- ③ 表彰や成績発表と長距離種目レースの重複
 - ・ 表彰や成績発表と長距離種目レースが重複した場合、注目の決勝レースのような場合以外や、レース序盤であれば、表彰や成績発表を挿入する判断もありうる。この場合、途中時間発表への影響を最小限に抑えるため、計時地点通過直後に表彰や発表を開始する等の配慮を行う。また成績発表の途中で、計時地点にさしかかった場合には、「少々お待ちください」等と挿入してトラック競技との連携を図る。
 - ・ 決勝レースの後半や、レースが白熱している場合には、水を差すことになるので、極力レース中の表彰や成績発表は控えたい。
- ④ 好記録誕生と表彰や成績発表の重複
 - ・ とくにトラック競技等で好記録が誕生して、場内がその余韻に酔っているような場合、他種目の表彰や成績発表を行うことは要注意である。このような時、無節操なアナウンスをすると、せっかくの盛り上がりにも水を差すことがある。

3 EPMの実際

大阪で行われた世界陸上 2007 ではイベントプレゼンテーションマネージャー (EPM) が配置され、国内ではじめて運用された。EPMの役割は規則第 124 条に定められているとおりである。

(第 124 条 イベント・プレゼンテーション・マネージャー)

イベントプレゼンテーションマネージャーは競技会ディレクターと共に競技会の各種目やその他の演出準備を組織代表および技術代表と協力して計画する。また、その計画が達成されるよう、競技会ディレクターおよび関係する代表と協力して諸問題を解決する。(以下略)

(1) EPMの役割の具体例

イベントプレゼンテーションマネージャーの役割については、「音楽や映像を使って競技会を演出する仕事である」と国内では理解されていたが、IAAFが求める職務内容は広範囲かつ専門的な内容に踏み込んでいる。実際に世界陸上大阪大会でEPMが行った内容は以下の通りであった。

- ①「イベントプレゼンテーション基本計画 (EPプラン)」の策定
場内アナウンス、進行連携 (TV 放送・表彰・タイムテーブル管理)、電光掲示板、映像、スコアボード、場内音楽、各種プロモーション、場内リスク管理 ~これらを織り込んだ「プレゼンテーション基本計画」を作成し、主催者 (組織代表・技術代表) の承認を得る。
- ②EPプランに基づく関係部署との連携確認と、事前シミュレーションの実施
策定されたEPプランに沿って関係各部署と連携についての確認を実施するとともに、それぞれの部署の準備状況について競技会ディレクターと協働して進捗管理を行う。
- ③競技進行については事前に分刻みダイヤ (minut by minut suchedule) を作成し、競技会で起こり得る可能性のある事象について検討し、解決策を準備する。

④ 競技会開催中におけるコーディネーション

競技会における進行・演出に関し競技会ディレクターから判断を委任され、E Pプランと事前に策定した分刻みダイヤ (minut by minut suchedule) に沿って競技会をコーディネートする。

(2) 観衆が満足する競技会演出

競技場へ足をはこび観戦している観衆やテレビを通じて観戦している観衆が満足し、競技者がベストパフォーマンスを披露出来る競技会にするために特に留意すべき点は以下のとおりである。

① 「常に何かが起こっている空間」の演出

陸上競技はトラック・フィールドで複数の種目が同時に進行するが、競技進行の状況によってはごく稀に競技場に「何もおこなわれていない」状況が起こることがある。その様な状況は事前に策定する分刻みダイヤである程度予測されるが、競技場で何も見るものがなく観衆が沈黙している事がないように競技タイムテーブルを事前に調整したり、各種イベントやプロモーションを計画することが必要である。また、事前の予想や計画に反してその様な状況になった場合には、臨機応変に対応することが求められる。

② 観衆にとって分かりやすい競技会の演出

多種目が展開する競技会において、観衆が注目すべき場面は刻一刻と変化する。その様な状況下、「今注目の種目は何か」を正確に把握して選び、アナウンスなどでガイドして注目させるという役割が期待される。それがフィールド競技の場合にはトラック競技の進行を一部留め置くという措置も選択される。

③ テレビ中継がライブで行われている場合には、テレビディレクターと連携して中継を円滑に行えるように協働する。テレビ中継を通じて競技を見ている観衆へのサービスにも配慮する。テレビとは事前に策定する分刻みダイヤなどで予め打合せを行っておくことで、円滑な進行と連携が可能になる。

4 競技場の設備環境に応じた工夫

(1) コンピューターシステムの活用

① 大規模な競技会ではアナウンス席にコンピューターが配備され、リアルタイムな途中経過等の情報をモニター上で見る事ができるようになった。コンピューターを使いこなしながらアナウンスすることが求められる。

② 従来紙で配付されていたスタートリスト (流し用紙) リザルト (結果)、気象状況等が、コンピューターを利用することで不要なものとなった。その代わり見落としや読み落としがないように、チェックリストを用いて管理する必要がでてきた。特に抗議に備え、結果の発表時刻をチェックリストに控えておくようにすべきである。

③ トラック競技では、2着以下の記録も順次表示されていくので、「2レーンの○○君も日本新記録をマーク」「3レーンの△△くんもA標準記録突破」といった具合に好記録である場合、即座にアナウンスするよう心がけたい。ただし、混戦のレースでは、着順が変わる場合もあるので、写真判定員、記録・情報処理員と連携を密にすると共に、適確な表現を用いる必要がある。

最近では、スクリーンにも順に記録を表示をしていく方法（ライブリザルト）も取られているが、判定中であることを伝え、正式結果が確定してからアナウンスすべきである。また、黄旗が挙げられている場合は、その旨ことわりを入れておく必要がある。

- ④ フィールド競技では、計測のつど記録表示が変わるので、順位の逆転や記録の伸び等についても一目瞭然である。紙に印刷したり記入していると、タイミングを逸するケースもあるので、極力画面を見ながらアナウンスする必要がある。

(2) 競技場の形状を考慮したアナウンス

- ① 国立競技場等のように、大規模なスタンドがあり屋根がついているような場合には、アナウンスの声は反響して競技者や観衆の耳に届くことになる。話すスピードや、言葉と言葉の間の“間”が非常に重要であり、早口でのアナウンスでは競技場全体に共鳴して何を話しているか、わからなくなる。
- ② 一方で、中小規模の競技場では、音響設備そのものが貧弱で、苦勞することも少なくない。競技場によっては、ハンドマイクでのアナウンスを強いられるケースもあるが、この場合は肝心の伝達事項が伝わらない可能性も出てくる。
- ③ 天候（主に気圧、湿度）によって、同じ音量（声量）でも伝わる距離や音量そのものが異なることがある。競技会が複数日にまたがる場合、前日と同じ音量でも、まったく違って聞こえるケースもあるので注意が必要である。
- ④ いずれにしても、競技場の構造、音量、設備等を十分理解して、競技場内の各所でどのように聞こえているかをチェックすることも必要である。競技場に慣れてくれば、適正な音量は把握可能である。
- ⑤ アナウンサーの定位置をどこに置くかで、アナウンス環境は変わってくる。手動計時の競技会では、決勝点の近くで記録の速報性を重視したアナウンスを行う方法もあるが、最近では競技場全体を見渡せる場所にいることが多くなっているため、ワイヤレスマイク等が準備できれば、フィールド競技のピットから直接アナウンスしたり、表彰アナウンスを表彰係の横で行う等の工夫で、より効果的なアナウンスが可能になる。

(3) スクリーンの活用

- ① スクリーンの設備がある競技競技場では、スクリーンを有効に活用することで、よりわかりやすく迅速なアナウンスを行うことができる。
- ② スクリーンは、音声による情報伝達であるアナウンスとは異なり、視覚を介した情報伝達であることから、観衆がそれに注目しなければ情報が伝わらないということを十分考慮し、情報が表示された際にタイミングを逸することのないようアナウンスでフォローすることが重要である。そのため、電光掲示係と十分な連携をとることが必要である。
- ③ 紹介や下位記録の発表をスクリーンによる発表に代えて、アナウンスの省力化を図る工夫もできる（「6 アナウンスの省力化」参照）。また、文字で発表した方が都合のよい内容や、アナウンスが困難な状況（スタート直前や、フィールド競技で好記録への挑戦時等）では、スクリーンに注目させることで、情報の伝達を図ることもできる。
- ④ 映像を表示できる場合は、紹介の際に併用したり、トラック競技やフィールド競技の状況を映したり、競技終了後にリプレイを映し出す等の工夫により、観衆へのサービスを図ることができる。
- ⑤ いずれにしても、スクリーンにどんな情報が表示されているかに注意を払い、的

確に観衆に注目させることが必要である。また、結果の発表等では、印刷を待たずにスクリーンを見ながら発表できるようにしたい。

5 競技会を盛り上げるために

- (1) 国体、スーパー陸上、室内競技会等いろいろな層の観客が集まるような競技会の場合は、とくに解説が必要である。やさしくわかりやすく解説することにより競技会は大いに盛り上がるものである。解説するものには次のようなものがある。
 - ① 種目について
種目の特性、技術（ハードル、3000m S C、競歩、リレー、走高跳、棒高跳等）
 - ② 競技場について
全天候舗装、スタート位置等
 - ③ 器具、器材について
タイマー、光波計測機、途中経過表示装置、砲丸、ハンマー、やり等
 - ④ 競技者について
自己記録、経歴、技術、身長、体重
 - ⑤ 見どころ
出場競技者、記録
- (2) 競技会を盛り上げるためには、さまざまな情報を集めて、その中のエッセンスを話すということが必要である。何日も前から準備をしても、実際に競技が始まると、結局ほとんど話せないということも往々にして起こるが、競技会の流れに乗って進める等、取捨選択も必要である。
- (3) 記録、ランキング、過去の対戦成績等はインターネット等から比較的簡単に収集することが可能になっているほか、競技者個人や所属チームのホームページ等からは、かなり詳細な情報も収集できる。競技会の性格や位置づけに応じて、観衆の興味がある情報を、いかに的確かつ正確に伝えるかが重要である。
- (4) 情報は、「見どころ」としてまとめてスタート前にアナウンスする等、観衆にわかりやすいアナウンスを心がけたい。あらかじめプログラムのスタートリストに印をつけたりする等、観衆も心の準備ができる。
- (5) 競技者の紹介アナウンスの中で過去の成績等を挿入する方法もあるが、わずかな時間にさまざまな情報が混在することとなるので、競技日程の余裕にもよるが、可能であれば紹介アナウンスの前にまとめて紹介すべきである。
- (6) 無理に盛り上げようとせず、しかし、事実をタイムリーに伝えることで、観衆は競技者に対して最大の賞賛をおくり、競技会は盛り上がりを見せるものであることを忘れてはならない。

6 フィールド競技の描写を充実させるために

かねてから「アナウンスがトラック競技に偏りがちである」という指摘は多く、フィールド競技の描写の充実は、アナウンサーにとっての大きな課題である。本冊では「Ⅱ 基本編」でも「トラック競技偏重を避けるためには」としてこの問題に触れているが、ここでは逆に「フィールド競技の描写を充実させる」という観点から、諸課題について整理することとしたい。

- (1) 競技日程に関して
 - ① トラック競技とは異なり、フィールド競技では複数種目が同時に実施されること

が少なくない。あまりに多数の種目が同時進行するような競技日程では、各種目専任アナウンサーを配置しても、声が重なったり、他種目の競技者が試技に入ってタイミングを逸してしまう等、フィールド競技の描写は困難を極めることになる。

- ② 参加人数の多い中高生等の競技会では、競技日程も過密になることが多く、フィールド競技でも、午前中に予選を実施し、午後から決勝というケースも少なくない。しかしこのような場合でも、決勝の開始時刻が若干ずれていれば、少なくとも競技者紹介は容易に行うことができる。
- ③ 競技日程は、総務を中心に実行委員会組織等で作成されるのが一般的であるが、アナウンサーからの働きかけによりフィールド競技の描写がしやすいような競技日程を組むことが、フィールド競技のアナウンスを充実させるための第一歩である。

(2) 機器に関して

- ① フィールド競技で一眺一投の描写を行うためには、競技の進行をリアルタイムで把握する必要があり、そのためにはアナウンス席に担当するアナウンサー分のコンピューターが配置されることが望ましい。
- ② コンピューターがなくても、競技実施地点に記録表示器が配置されれば、アナウンサーが視認により描写することが可能である。なお、以下のような問題が起こらないようにするためにも、事前にフィールド審判員と十分な打ち合わせをすることが必要である。
 - ・ 補助員、審判員が記録表示器の前に立つため、記録が判読できない。
 - ・ 記録表示器がアナウンス席を中心にして向けられない。
 - ・ 表示される記録が瞬時のうちに消えてしてしまう。
 - ・ 記録表示器があるのに使用されない。
- ③ コンピューターシステムが導入されていない競技会では、トップ8やバーの上げ下げ等を迅速に把握するため、アナウンサーとフィールド審判員との間にトランシーバー等による連絡方法を確保しておく必要がある。

(3) 他部署との連携

- ① 競技開始合図のタイミング
 - ・ フィールド競技の競技開始は、往々にしてトラック競技と重なっていることが多いが、タイミングよくフィールド競技の紹介ができるよう、出発係との連携に心がけたい。
 - ・ 一方、アナウンサーに何の連絡もないままに競技が開始される場合もある。アナウンサー側でも見落としがないよう努める必要はあるが、フィールド審判員からも連絡が入るよう連携を密にしたい。
- ② 呼び出しのタイミング
 - ・ とくに砲丸投において起こりがちであるが、前投てき者の記録が表示されて記録表示器が1回転している間に、次投てき者が呼び出されて試技が開始されてしまうことがある。記録表示器が1回転するのを確認してから、次投てき者を呼び出すようフィールド審判員に要請しておくべきである。
- ③ 出発係との連携
 - ・ フィールド競技で好記録に挑戦する時、トラック競技の出発を待たせた方がよい場合がある。このような瞬時の措置がスムーズにできるよう、出発係と事前に意思統一をしておきたい。

(4) アナウンサー相互の連携

① トラック競技担当者との連携

- ・ ともするとトラック競技を優先しがちだが、「トラック競技予選よりはフィールド競技決勝優先」「同じ決勝でも好記録挑戦時はフィールド競技優先」等の考え方を意思統一しておく必要がある。

② フィールド競技担当者間での連携

- ・ 複数のフィールド競技が同時に進行している時には、担当者間で優先順位を決めておく必要がある。また、紹介後に間が空くと、競技者が集中に入ってしまう、他種目の描写を挿入するタイミングを逸することがある。このような場合は、「走高跳は〇〇君」「走幅跳は〇〇さん」「やり投げは〇〇君」のように、間髪入れずに紹介することが必要である。さらには、同一アナウンサーが集約して紹介した方がよい場合もある。

③ アナウンサー間の連携

- ・ 自分がマイクに向かっていると、他の競技の進行まで細かく把握できない場合がある。アナウンサー間の連携を保つためには、お互いに状況をそのつど確認しあうとともに、その時間帯に担当からはずれている他のアナウンサーが競技進行全体に目を配り、「トラックは選手がスタートラインに出てきた」「フィールドは〇〇が大会記録へ挑戦」等の声をかけるとよい。

【例 85 フィールド競技描写のスポット挿入例】

スタート5分前	<p>【トラック競技見どころ解説】「あと5分少々でトラック競技は男子400m競走準決勝が行われます。この準決勝は全部で … 」</p> <p>【フィールド競技スポット】「この間に女子円盤投は5回目に入りました。4回目に〇〇さんが46m78と記録を伸ばしています。次の投てき者は〇〇さん。その後に〇〇さん、〇〇さんと続きます。」</p>
1分30秒前	<p>【トラック競技紹介】「それではトラック競技、男子400m競走、準決勝第1組が行われます。出場者を紹介します。第1レーン … 」</p>
30秒前	<p>【スターター】「位置について」</p>
0秒	<p>【トラック競技スタート】</p> <p>【トラック競技描写】「男子400m競走、準決勝第1組です。」</p> <p>【フィールド競技スポット】（バックストレート付近で）「女子円盤投は5回目、続いて4回目に46m78をマークした〇〇さんです。」</p>
フィニッシュ	<p>【トラック競技描写】「フィニッシュタイマーは47秒58で止まっています」</p> <p>【フィールド競技スポット】「女子円盤投、〇〇さん5回目にさらに記録を伸ばして47m13。これから最後の6回目。はじめに〇〇さん。」</p> <p>【トラック競技描写】「1着の速報が出ました。1着、4レーン、125番〇〇君。時間47秒59。」</p> <p>【フィールド競技スポット】「女子円盤投は最後の6回目。〇〇さんは41m45。本日のベストは2回目の42m02でした。続いて〇〇さん」</p>
成績発表	<p>【トラック競技成績発表】「プログラム24ページをお開き下さい。ただいま行われました男子400m競走、準決勝第1組の結果です。 … 」</p> <p>【フィールド競技スポット】「結果の発表の間に、女子円盤投決勝、最後の6回目、〇〇さんは42m97、〇〇さんは43m43とそれぞれ記録を伸ばして競技を終えています。次の投てきは〇〇さん。」</p>
1分30秒前	<p>【トラック競技紹介】「続いて男子400m競走、準決勝第2組が行われます。出場者を紹介します。第1レーン … 」</p>

6 アナウンスの省力化

記録会や中高生の競技会では過密日程で競技が行われることも少なくない。このような場合、アナウンスする内容を取捨選択して省力化を図り、競技を円滑に進められるかどうかは、その場のアナウンサーの判断によることとなるが、以下、アナウンスの省力化に関する具体的な事例を示したい。

(1) アナウンス省力化の必要性

- ① 競技日程通りに競技を進行させることは、陸上競技会にとって重要な事柄である。アナウンスの内容が多すぎて進行に支障を来すようでは本末転倒であり、競技日程を勘案してアナウンス内容を取捨選択することが必要である。
- ② 予選組数が多い等、同一アナウンスパターンが繰り返されると、観衆にはかえって聞き取りにくい場合もある。また、予選と決勝で同一内容のアナウンスを繰り返すと、競技者のプロフィール等を紹介してもその効果が半減する場合もある。予選と決勝でアナウンス内容に変化をつける工夫も必要である。
- ③ 常にアナウンサーが話し続けている状況は、競技者や観衆にとって苦痛に感じられることもある。あえてアナウンスを行わないことで、「集中」「間」「余韻」を持たせる工夫も必要である。
- ④ 複数競技が同時進行中の場合、その状況によっては全競技を平等に紹介することは不可能であり、「濃淡」をつけたアナウンスが必要である。
- ⑤ 競技会規模（日程）に比べてアナウンサーの編成（出席）が極端に少ない場合には、基本通りのアナウンスを続けることが、物理的にも体力的にも難しいことがある。

(2) 省力化の具体例

① トラック競技紹介

【例 89 所属、氏名、出場者数のみ紹介】

男子 200m 競走、予選第 1 組は、〇〇大学の〇〇君、〇〇大学の〇〇君 …、7 名の出場で行われます。

〔注〕 中長距離種目であれば、スタート後に紹介する工夫もある。

【例 90 組数、出場者数のみ紹介】

女子 800m 競走、予選第 2 組は、第 3 レーンを空けて 7 名の出場で行われます。

② フィールド競技紹介

【例 91 所属、氏名、出場者数のみ紹介】

女子走幅跳、予選 A 組は、〇〇大学の〇〇さん、〇〇大学の〇〇さん …、18 名の出場で行われます。

【例 92 組数、出場者数のみ紹介】

男子砲丸投、予選 B 組は、プログラム通り 16 名全員の出場で行われます。

③ フィールド競技ベスト 8 発表

【例 93 所属、氏名とトップ 8 最低記録のみ紹介】

男子走幅跳決勝、トップ 8 に残りました選手は、〇〇大学の〇〇君、〇〇大学の〇〇君 …、以上〇m〇〇以上の 8 名であります。

【例 94 所属、氏名のみ紹介】

男子走幅跳決勝、トップ8に残りました選手は、〇〇大学の〇〇君、〇〇大学の〇〇君 …、以上8名であります。

④ 成績発表

【例 95 スクリーンを併用】

スクリーンをご覧ください。男子 200m競走、予選第1組の結果が表示されています。1着は〇〇高校の〇〇君で、〇秒〇。2着以下はご覧の通りであります。なお、この時の風は、〇mでした。

[注] この他、全記録を掲示することで成績発表はすべて省略する、トラック競技予選・準決勝等では次ラウンド進出条件以内（例：「3組2着+2」の場合は4着まで）の記録だけ発表する等の工夫もある。

⑤ その他

- 競技日程が過密な場合には、トラック競技で先頭の競技者がフィニッシュした後、全員がフィニッシュするまでの間に結果発表を行う。
- 参加人数が多く、100mがホームストレートとバックストレートで同時進行する場合には、競技が開始されることのみをアナウンスし、組数等のアナウンスは行わない。
- トラック競技において、荒天時や酷暑時には、あらかじめ出発係と打ち合わせの上、先に競技者紹介を行ない、アナウンスが終わったタイミングで競技者をスタートラインにつかせる工夫もある。

V 資料編

1 アナウンス実戦トレーニング

(1) 正しく正確なアナウンスをするために

① 姿勢

- ・ より美しくマイクに拾ってもらうために、姿勢は正しく。
- ・ 机にもたれない。
- ・ 原稿に顔を近づけない。
- ・ 視線で追う。

② 発声

- ・ マイクのコンディションをつかみ、自分の声とバランスをとらせる。
- ・ 声は吐く息に乗っていくものであり、声を通らない人は、吐く息が口の外に出てないことが多い（声質が悪いのではない）。声を出す時に喉を開く。舌で閉めてはいけない。
- ・ 一般の人より高い声だと思ふ人は、努めてゆっくりしゃべる。
- ・ 一般の人より低い声だと思ふ人は、努めてはっきりしゃべる。

(2) アナウンスのテクニック

① 発声の際は、口を大きくしっかり開いて腹部に力を入れる。

② 語尾が消え入らないよう注意する。

③ 鼻濁音（「がぎぐげご」など鼻に抜ける音）を活用すると、きれいに聞こえる。

④ 言葉によっては、微かな間をとることで聴きやすくなる。（例：数字の読み方は2桁ずつで間をとる。）

- ・ 「821 番」… はっぴやく・にじゅういちばん
- ・ 「1437 番」… せんよんひやく・さんじゅうななばん

⑤ アクセントやイントネーションに十分配慮する。

(3) 発声と呼吸のトレーニング

① 複式呼吸（喉を緊張させず、空気を多く出し入れすることが可能で、聴きやすい声を発声するのに適している）

- ・ 足を肩幅程度に開き、重心をその中心に置く。
- ・ 背筋を伸ばし、アゴを引く。
- ・ 両肩、両腕の力を抜いて、手は軽く膝の上に。
- ・ 口または鼻からゆっくり空気を吸い込む。
- ・ 限界まで吸い込んだらゆっくり口から吐き出す。

② 発声の留意点

- ・ 全身の力を抜いて楽な姿勢で行う
- ・ 口は十分に開き、徐々に大きな声を出せるように。
- ・ 横隔膜の手をあてて、その手に響くように。

③ 呼吸練習法

- ・ 長くゆっくり吸い込んで、長くゆっくり吐き出す … 「す～、は～」
- ・ 長くゆっくり吸い込んで、短く一気に吐き出す … 「す～、はっ」
- ・ 短く一気に吸い込んで、長くゆっくり吐き出す … 「すっ、は～」
- ・ 短く一気に吸い込んで、短く一気に吐き出す … 「すっ、はっ」

■実戦トレーニング

◇ 発声練習の前に、柔軟体操を

- 首の運動
手を腰に、足を軽く開いて立つ。
首の力を抜いて、頭を前に倒し、ゆっくり右、左に回す。
- 肩の運動
肩を前から後ろへ回す感じに動かす。
肩を上げたり、下げたりして肩の力を抜く。
- 背骨を伸ばす運動
両手を頭上に高く上げる。両手を限界まで高く上げる。
一気に身体全体の力を抜き、手を下げて、膝までまげてうづくまる。

◇ 発声練習は正しい姿勢で

- 両足は軽く開き、重心は足の親指のつけ根に置く。
- お尻を上げるように引き締め、背筋を伸ばす。
- 胸を前に保って肩の力を抜く。
- 首に力を入れずに、頭を真っ直ぐ上げ、あごを軽く引く。
- 目を大きく見張り、視線はやや上に。

◇ 実践

- 大きく通る声の練習1 区切りながら瞬発的に発音する。はっきりと正確に。

あえいうえおあお	はへひふへほはほ	がげぎぐげごがご
かけきくけこかこ	まめみむめもまも	ぎぜじずぜぞぞ
させしすせそさそ	やいえいゆえよやよ	だでぢづでどだど
たてちつてとたと	られりるれろらろ	ばべびぶべぼぼ
なねにぬねのなの	わうえういううえをを	ばべびぶべぼぼ

- 大きく通る声の練習2 はっきりと正確に。

あいうえお	いうえおあ	うえおあい	えおあいう	おあいうえ
かきくけこ	きくけこか	くけこかき	けこかきく	こかきくけ
さしすせそ	しさしすせ	すせそさし	せそさしす	そさしすせ
たちつてと	ちつてとた	つてとたち	てとたちつ	とたちつて
なにぬねの	にぬねのな	ぬねのなに	ねのなにぬ	のなにぬね
はひふへほ	ひふへほは	ふへほはひ	へほはひふ	ほはほふへ
まみむめも	みむめもま	むめもまみ	めもまみむ	もまみむめ
やいゆえよ	いゆえよや	ゆえよやい	えよやいゆ	よやいゆえ
らりるれろ	りるれろら	るれろらり	れろらりる	れろらりる
わいうえを	いうえをわ	うえおわい	えおわいう	おわいうえ
がぎぐげご	ぎぐげごが	ぐげごがぎ	げごがぎぐ	ごがぎぐげ
ざじずぜぞ	じずぜぞざ	ずぜぞざじ	ぜぞざじず	ぞざじずぜ
だぢづでど	ぢづでどだ	づでどだぢ	でどだぢづ	どだぢづで
ばびぶべぼ	びぶべぼば	ぶべぼばび	べぼばびぶ	ぼばびぶべ

- 活舌を良くする練習 早口言葉です。はっきりと正確に早く言えるように。

この縁の下のくぎ 引きにくい
 思う人 思わぬ人の思う人 思わざらなん 思いしもなく
 なまむぎ なまごめ なまたまご
 となりの客はよく柿くう客だ 客が柿食えば飛脚も柿食う
 あかまきがみ あおまきがみ きまきがみ
 うまやの前の なまむれわら
 赤い赤い夕日に 青い海があいいろに染まった
 赤あまがっぱ 青雨がっぱ 黄雨がっぱ 茶雨がっぱ 桃雨がっぱ
 犬に追われた猪を いもずる式に いっさいがっさいいけどった
 あやしい いやしい うらやましい うれしい やましい いやらしい
 この木 梅の木 うきうき植えろ もうじき梅の実 たくさんとれる
 おおナタデココ こナタデココ なかナタデココ
 ガアガアあひる カアカアからす メーメーこやぎ
 下北沢 中北沢 上北沢 池袋 手袋 お袋 かんにん袋
 なまたまねぎ ほしたまねぎ はんなまたまねぎ
 人の非は非とぞにくみて非とされど わが非は非とぞ知れど非とせず
 あやしみとあやしむべきをあやしまずあやしからぬをあやしむや
 ありありとありありみえるありのむれ ありありありはありの大将

じゅげむ じゅげむ ごこうのすりきれ
 寿限無 寿限無 五劫の擦り切れ
 かいじゃりすいぎよ すいぎょうまつ うんらいまつ ふうらいまつ
 海砂利水魚 水行末 雲来末 風来末
 くうねるところにすむところ やぶらこうじのぶらこうじ
 食う寝る所に住む所 藪ら柑子のぶら柑子
 ばいぼ ばいぼ ばいぼのしゅーりんがん ぐーりんだいのぼんぼこぴーの
 パイポ パイポ パイポのシューリンガン グーリンダイのポンポコピーの
 ぼんぼこな一のちょうきゅうめいのちょうすけ
 ポンポコナーの長久命の長助